# 光

第十號

大正十一年四月

◇地下水の如くに……西田天香
◇獨白……八田勝三
◇愛に關する一考察……中桐確太郎

**同人　懺悔報恩の奉仕者**
**祈願　不二の光明によれる生活**
**費用　供養されたる淨財**

◇或る日のいのり……藤井悌
◇西國行……松下吉衛
◇返照錄……遠近兄姉

一燈園◇宣光社

大正十一年四月十五日印刷納本大正十一年四月十五日發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

# 光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は卽ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

**不二の光明によりて新生し、許されて活きん。**

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ、他に障りなき生涯を送らむことを期す。

**諸宗の眞髓を禮拜して歸一の大願に參ぜん。**

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成ニ就大圓覺一

別願　將ニ來世界眞平和一

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず　古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

**懺悔の爲に奉仕し、報恩の爲に行乞せん。**

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脫るゝことを得べき、願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

**法爾の清規に隨ひ、世諦を成ぜん。**

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生産業に卽して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し以て在家俗諦を成就せんことを期す。

**卽ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せん。**

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば則ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは箇中の消息、もとより言辭の擧覽し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。

天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙ほ自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその清規によりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷、紛爭、葛藤を根絕し、以て齊家、治國、平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じて卽ち無相不二。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

# 地下水の如くに

西田天香

中桐さんの御紹介下さつた通り、私共の生活は謂はゞ地下水のやうなもので、この十八九年といふもの沈默して行じさせて貰うて來ました。此頃は、時代の要求といふのでありませうか、そつちこつちから呼ばれますので、柄にもなく、講演の眞似事をさせて貰うてゐます。中桐さんとは十數年來の舊いお連れでして、倫理哲學宗教等の方面から、この生活に對して嚴正批判をして貰うてをりますが、大體無難なさうで、ボツ〳〵歩ませて貰うて來てゐる次第であります。

さて私共の生活の内容ですが、極めての平凡事で、かうした高所から申述べるのも氣恥づかしい位で御座います、けれど、見樣によりましては、又、充實味がないでもありません。

一例を擧げますなら、つい先頃中のことであります、ある宮内官吏の娘さんが、前方一燈園にゐられた叔父さんに當る人の御紹介で、園に來られました。當時、京都帝大圖書館に勤めて居られた笹岡樣が妻君を急病で持つて行かれましたので、あとに三人の子供をかゝへて、女中を探しても見附からず、大變お困りになつて、園に托鉢者を求めて來られましたので、今の娘さんにいた〳〵しいとは思ひながらも外に適任者もをりませんでしたから「行つて上げてくれられませんか。」と相談的にもちかけましたところ、快く受けて下さつたので、行つて貰ひました。ところが二日程しますと、その方が園に參られまして

「實は、私はもう圖書館の方は止めて東京へ歸らねばなるまいかと心配いたしました。お蔭さんでほんとに助かりました。」

と御禮を申されました。娘さんは家に居れば人手を要する寄生的な生活を境遇上餘儀なくさせられて居たことゝ思はれますが、かうして園の生活に立たれゝば、俄かに他を成就する力までを發揮されます。こゝは實に妙です、何も私が教へるといふのではない、如法に身を持てば、誰しも自づと光からぢき〳〵に授かることゝ信じます。たゞ求め方がほんとうでないと、いけませんやうです。

大體、私は一燈園へ來られる求道者を三つの品等に分けて

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

おますが、——例へば私がよく寄せて貰ふ河道屋へ托鉢に參つて、うどん踏みをして居るとしまして、そこへ求道者が見えられて私を二階の客室に招じ上げて、「一燈園生活とはどういふのです？」といふやうな問ひ方をされる人を三等客をしてをります。結緣の爲めに時間の許す限りはかうした求道者にも勿論會はして貰うてはゐます。次は二等客ですが、この品等の求道者は敢て座敷には上らず私の働いてゐる場所に來て道を問答される、半ばはもう托鉢したいといふ氣分になつて居られる方です。御飯時になつて御飯をすゝめられても大抵おあがりにならないのが普通です。それから來られるなり直ちに托鉢を實行して下さる方が一等客です。一等客は入園のその日から淨まつた食物で養はれます。一所に手傳つてくれたといふので河道屋でも喜んで供養してくれますし、夜は一燈園がお宿をさせて貰ふことになります。

一等客の例にこんなのがありました、これは僧侶の出の方でしたが、一日奉仕されて園に歸られて私に申しますには

「天香さん！　わしは今日こそほんとうにしみ〴〵お經を讀まして貰うた實感を得ました。どうもお寺に居たのでは、かうした氣分は味ひ知られません。」

私は尋ねました。

「どうしてゞせう？」

その方は暫らく考へるやうにしてからお言ひでした。

「生活が脅かされないからではありますまいか？」と。



さうです、一燈園生活は、私の口から申しますと、自畫自贊に聞えまして變で御座いますが、可なり嚴肅な意味に於いて、脅かされない生活と謂はれやうかと思ひます。身命財能を光にお任せして、御旨に叶ひますならお役に立たせて頂きませうと、低く出て居るのですから「脅かし」は感じないわけでせう。逃げ言葉のやうでは御座いますが、所謂「果分不可說」でやつてみんことにはこの風光は說明申上げましても御了解に苦しまるゝことのやうです。

それでよく諸所で「一燈園生活の要領を言へ」とのお尋ねに接しますが、これは比喩を以てお答へする外はないと存ぜられます。私は次のやうな例を引いてお答してをります。

「重荷を負うた人の爲めに其の荷を分けて擔うて上げた時の端的な實感と、過去もなく未來もなく刹那々々を全人的に生き切つた氣持！」

勿論煩惱具足の凡夫であります。いつも緊張してかうなり通しにあることは、とても叶はぬ願でありませう。そこで懺悔の念が愈深められるといふものです。

話は色々になりますが、京都鹿ケ谷にある一燈園は、今から十一年前篤信の婦人達の建立に係るものでありますが、一燈園生活はもとよりこゝに居る者のみに限らるべきではなく、こゝは寧ろ一燈園生活の門とでも呼ぶべきでありませう。建物の大きさから申せばまあ三十人位をるに適當してゐると思ひますが、此頃は大分[illegible]

〳〵常に六十人を下らない有樣です。在園者を類別いたしますと、實業家三割、宗教家三割、教育家二割五分、あとが藝術家靑年男女學生といふ順序です。在園の期間は半期から三ケ月が最も多く、長きは數年にも亘つてゐますが、これは極少數者です。

いらつしやる宗教家には、眞宗の方、禪宗の方、法華、眞言の方、金光教、天理教の方、ヤソ教の方、乃至大本教の方等隨分種々で御座いますが、皆お連れにさせて貰うてゐます。一燈園生活にまで步まれて各宗が甦り徹底すると云ふのではありません、かうして各宗の決烈の士と親しうさせて貰うて、各の精髓とする所をハツキリ教へて頂き拜まして貰うてをる次第であります。

ある人は評して言ふ「一宗派にならねば纒りがつかなくはないか?」と。さう言はれますとそんな氣も致さないではありませんが、こちらにはこのまゝで一向差支なく、寧ろ反つて具合のよい場合が多いやうでもあります。一燈園の托鉢者は、眞宗のお家へ參れば「南無阿彌陀佛」を、法華のお宅へ上れば「南無妙法蓮華經」を、ヤソの信者の許では「アーメン」を、可なり自然に誦ぜられます。宗教の生命は「信」が生活に「行」ぜられる所にあらうかと考へられますが、此の點さへハツキリして居ますなら、あまり宗旨の差別をやかましう言はんでもとの氣もいたされますがどういふものでせうか。

一燈園の日々の行持を申さうなら、朝は未明に拍子木相圖に起床いたします。直ちに園内外の掃除洗拭、これが約三十分間。洗面淨身の後（一燈園は東山の中腹にありますので谷水を筧に引いて使つてゐます。）禪堂に靜座看經。禪堂は表玄關の取附にある十五疊敷の部屋で、中央十疊敷の所が板の間で一段低くなつてをり、同人の作やら、どこぞから頂いて來た、維摩の像、觀世音の掛圖等が正面にかざられてある。私の居ります折には私がその前に座つて司會させてもらふのです。（不在中は當番）看經が終つて後、同人の托鉢ぶり其他について話させて貰ふ例になつて居ます。此間約一時間。すると拍子木が又鳴つて禪堂の下半地下室の食堂で朝食といふ順序。しかし在園者の大部分は當番の報告に從つて、朝食を採らないで托鉢に出掛けるのです。園に殘る人は病者幼者老者にあらずんば、炊事係か、稀に園附近の農園を手入する者に限られてゐます。

さて托鉢ですが、世智辛い世に、報酬を求めず、何なりお役に立たせて貰ひます、とやうに、出て居ますので、仕事はいくらでも與へられます。「どうして報酬をとらんで生きて行かれるか?」と、いぶかしがられる方もあるか知れませぬが、こゝは體驗なさらんと容易にうなづかれんもので、實に奇妙です、私は言ひやうがありませんので、暫らく「お光に養はれる」と申して置きます。

でも托鉢者も時には隨分不細工を演ずる事があります。專門外のなれぬ業もその時の都合でさせて貰ふこともあります



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ので、飛んだ挿話を作らせられもします。この間もこんな傑作がありました。ある專門學校の卒業生でしたが、障子張りに頼まれて參りまして、倒障子に張つて歸つたのです。その家の人の言はるゝのに

「これもよい記念になる。一年間眺めさせて貰はう」

と。かう言うてくれられるお家は、ほんとに難有いが、中には又如何に勸めましても了解して貰へないお家もあります。

まあ在園者の生活は大抵こんな調子で、定住的に何日間も托鉢先へ宿らせて貰ふ場合もありますが、多くは夕食を頂かせて貰ひますと、園に歸つて來るのです。そして同人同志うちくつろいでその日の模樣を話し合つたり、書見するなり手紙を書くなりして十時頃には就床するのです。

文化生活の高唱され、知識萬能の現代に、さりとは、餘りに文明否定論に過ぎずやとの難詰にあふこともありますが、私はいつも答へてゐます「一燈園は文明文化知識を決して否認はしません。たゞこゝは學愚の道場です。」と。

又、萬事金の世の中に報酬をとらんといふ法があるかとのおしかりも屢蒙るところですが、私はこれにもかう答へてゐます「こゝは學貧の道場ですから。」と。

敢て無知を誇るとにはあらねど、お光りの導きがあります。黃金のきらめきはこゝに見られませんが、幸に用ゐても減らない福田があります。所有てる者でも足らぬ〳〵と言ふなら、所有たずして充實せる者と、何れが仕合せなりやは、詳かに判ぜられないやうでもあります。知識的に色々問題を持つた方も、托鉢の體驗によつて疑團の釋かれた實例は一再に止まりません。托鉢者それ自身が救はれるのみでなく、その人のはたを成就する功德を現前に見せさせて貰ふ時、尊きある者に讚仰せずにはをれぬ心になります。

最近に次のやうな實例がありました。

ある外交家の長男さんですが、境遇の爲めからでせう、酒量が過ぎたりして、色々御家庭内がごて〳〵いたしまして、とうとお父さんの激怒を買はれ、お父さんは廢嫡の訴までされて了うたのです。ある方の紹介狀を持つて長男さんが一燈園に見えられたのは、去年の秋、私が九州の旅路に出掛けます前日かと覺えてゐます。紹介狀を見ますと色々書いてありますので、私と一所に托鉢して頂く方がよかりさうに思へたものですから、そのまゝお連れしたのです。ところが一週間も一所に歩かせて貰うてゐる中に、すつかり變つて了はれて其後一ト月ばかり經ちますと實にりつぱになられ顏の相形まで一變されたではありませんか。お家が東京なので此度一所に參りまして、御兩親はじめ御家族の方には會はせて貰ひましたが、私が

「御長男さんは、すつかり變られたやうです。家の財產など強いていらんと言うてられます。」

と申しますと、お父さんも

むといふのでせう。何だか狐にでもつまゝれてゐるやうです。」と仰せられました。

御長男から後で聞かして貰うたのですが、「今までは隨分親不幸をいたしましたが、親父の肩もさすらして貰ひましたし、もうどんなことがありましても安心いたしました。」と喜んで居られました。

又、有名な發明家sさんの息子さんも此頃同人になられて徹底的な態度に出られて居りますが、九州の旅に、やはり、一所に參りましたものですから、途上某炭鑛に御勤務なさつて居られる兄さんをお訪ねになつたのです。取次の給仕をつかまへて兄さんは、

「どんな風をして來た?」と聞かれたそうです。

兄さんは弟の黑木綿筒袖の異樣な風を見て、行き會ひしなに「俺を刺しに來たのか?」と身構へされたさうですが、弟さんの方から、

「兄さん! 私が惡うござんした。」と詫びられたので、兄さんも

「詫び遲れて濟まなんだ。」と低く出られたさうな。今日又九州から兄さんの御手紙でしたが、驚きましたことには、生活をすつぼり變へて新生涯に立たれる決心をなされたとあります。

先刻こちらに上りしなに製鐵所の出張所で白仁長官に會はせて貰ひましてすが、長官の言はるゝには

「倫理學哲學上からは種々喧ましい議論もあることでせうが、どうも自分は、性惡説を信ぜざるを得ない。古來幾多の聖賢があれ程にまで力行されて來てゐるのに此頃など取り分けちよつとしたはづみに、社會が覆りはせんかと思はれるやうな大動搖を來す。ほんとに仕樣のないものだ。」

全く尤な御説で、世の中の殺伐になるのも諧調を呈するのも一轉語の間の事で、實に危險千萬でありますが、私共の經驗では、道德上に所謂善惡のも一つ奥底に何か光つたものがあるらしいのです。

私は嘗て四國詣りをさせて貰うたことがありますが、一行中に相當な旅館の息子さんで少し氣の變なTさんといふ方が居られました。神戸の波止場での話しですが、仲仕が「遍路が通り居る」と聲高に言つたものですから、Tさん言下に「何ぢやい」と怒鳴り返しました。私が「遍路といふものは、なぶられやうが馬鹿にされやうが、ぢーつと耐へて居るもんぢや!」と撫でるやうに話し掛けますと、「さうやか」と言うて、にこつとされた。此度は海を渡つて第一番の札所近くへ參りましたら「お遍路さんが通りやしやる」と路傍から言はれましたので、Tさんは合掌しざま「南無遍照金剛――」と拜まるゝではありませんか。先の「何ぢやい」と怒號した同じTさんが、かうも別な態度に出られるとは妙ではありませんか。これたゞごとではないと思ひます。こちらの出樣一つで菩薩とも成り夜叉とも現じます。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

此度私が八幡の製鐵所へ寄せて貰ひますのも、別に資本家側幹部筋へ阿諛せんが爲めでもなく、友愛會の向ふを張る精神でもなく、たゞ叶ひますなら私共の托鉢をしほに、幹部の方にも下へおりて頂き、勞務者の方々にも私共のいのりの存する所を如實に御了解願ひたいだけなのです。高所から說法しようとするでなく、幹部勞務者皆さまの內のよいものを拜ませて貰へば足りるのです。白仁さんにもこんな樣な意味のことを申しましたら、怪我をされて幾分憔悴氣味の頰に何お感じでしたか白い淚が滴々眼鏡ごしに見られました。

私が斯く僭越に聞える言葉使ひで、園の生活の內容を御紹介申上げ得ますには、いづれ貧弱にはきまつてゐますが、聊か體驗がないではないのです。

私は此の生涯に立たせて貰うて拾幾年間といふもの、女房も養はねば子供も育てず、私共各がぢき〳〵にお光から生かされて來てゐます。當年五十一才になりますが、北海道その他で商賣の經驗もないではありません。生活は中途半では駄目なやうです。儲けるか、一切を擲つか、二つに一つです。中途半のなまやさしさでは、病んで病み疲れて了ひます。本心を生かさんとする以上、無所有の最下坐まで來ねば問題が切れません。こゝまで來れば、又その切れ味は意想外なもので、一人出家九族生天とか一家新規廢國可興とかいふこともあながち過言ではないらしく私だけにはヒシと感ぜられます。どうでかうなり果てた私ですから、死ぬまでこんなやうにして御奉公を續けさせて貰ひますればと願うてゐます。

この生活をぢーつとかゞんで無心に行じさせて貰うてゐますと、こちらの志向にも何にもないひよんな影響がまゝあるのに驚かされます。

私は京都では河道屋といふうどんやに此の生涯になり早々から托鉢に寄せて貰うてゐますのですが、極最初の頃のことでした、番頭さんと一所にうどんふみをしながら、ふと見るともなしに傍の板張りに眼を向けますと、何やら雜多な樂書の中に、「百萬圓！百萬圓！百萬圓！」と續けざまに書いてあるのです。面白いなと思つて、向ひの番頭さん——源どんといふ名の——に話しかけました。

「あれ、誰が書いたのや？」

「わしです。」

「どういふわけか？」

「百萬圓儲けて銀行たてゝ頭取にならうと思うてゞす。一生うどんふみぢや火がふけません。」

「わしは又その百萬圓が恐ろしうてかなはんさかい、逃げてるのや。」

こんな對話を交はして半月ほどたつて行つて見ますと、「百萬圓」が消えてゐますので、源どんに聞いて見ますと、

「もう止めにしました」との答。

私は別段氣にも止めず、それはそれなりに何もなくすんだことゝ思うて居ましたのに、その事あつて[illegible]

然わしに「晝飯を振舞ふから」と源どんから招待があつたのです。行つて見ますとそれは中々の御馳走ふりなのでした。

「一體どうしたお振舞なのか？」と、舊いなじみなものですから、心安だてに尋ねますと、源どんは

「天香さん、百萬圓の事覺えてますか？」を冒頭に、當時、店が忙がしくて毎晩一時すぎまでも夜鍋させられてゐるのに主人は二階で尺八ブーブーやつてるといふ始末、不平でく堪らなかつたこと、夜逃げせうくと考へてをつたこと、それがあの對話と托鉢の落着方で發心が出來たこと、お蔭で主人の親類筋の娘を嫁にして暖簾をわけて貰うたこと等聞かされました。佛壇を見ますと、私の書いたやうな「南無阿彌陀佛」がりつぱに表装されて掛つてゐますので「これどうしたのや？」と聞きましたら「あんたの書かれたのを一枚失敬しておきました。もつと財が出來ましたら、佛壇もりつぱにしますせ。」と言ひますので「そりやどもならん。あんたも尺八を吹くやうになると困るな。」と笑ひましたら、源どんは薄くはやし始めた髭を手でかくしながら苦笑されました。

こゝにも勞資問題徹底的解決の微か乍らのヒントはあるのではないかと感ぜられます。手前は二階で尺八を吹いて居ながら、賃銀を少々位あげるのでは、所謂溫情主義に墮するもので、とても根本的に問題を整理する力はないかと思ひます。

一燈園生活の一淸規たる下座を行ずることに徹しますと、どこから湧く力か妙用か起り、味よう事件を整理してくれます。卑近な例で申上げますなら、私のよく寄せて貰うてる家に、下駄のぬぎやうの大變亂暴な女中さんがあつて、いくら言ひきかせても直らんかつたのを、奥様が方法を代へて、口では何もしからず、女中さんの下駄を手づから直しくされたら、女中さんがそれを見たものか、うまいことと惡癖を我れと嬌められたさうです。一見、何の奇もない一家庭の臺所に起つた茶飯事として過眼して了へばそれまでの話しでありますが、問題は必ずしも「量」によつてのみ評價されてはならない、何事も「量」で押して行かうとする現代にあつては特に「質」の吟味が緊要事と考へられます。この下坐の精神を押し及ぼして社會國家のことにかゝれば、隨分な大事業が成就されはすまいか。不德無能の私共は、その任でないこと無論ですが、便所掃除草挘り障子張り等むさい貧弱さうな仕事をボツ々日常にやらせて貰うてをりながらも、又社會國家の難解の大問題を等閑に附してゐるわけでもなく、混雜な世務を回避しても居りませず、否少しく僭越の言葉になりますが、信託されゝば此等に對しましても何とか御奉公させて貰ふだけの研究と用意とが不完全乍らもないではないのであります。

一燈園を無所有の生活とすれば、かうして信託されて財物事務を扱はせて貰ふ立場を暫らく名づけて「宣光社」となし、假所有の生活淸規の實證を使命としてをります。この二つが揃はんと具合が惡い。一つを重しとし他を輕しとすることは出來ませんが、一度徹底して無くてもすむ生活を行じて來て



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

をらんと、有るものをどう扱ふかがハッキリせないらしい。有るものゝどう扱ふかゞハッキリしさへすれば、一切の爲みに捧げた想理的運營でありますから、勞働者も一指だに染めることを許されませんし、又それだけの權威がなければなりません。反對に無所有の生活に立つとき、如何に貪慾な資本家といへども托鉢の剩餘價値の搾取は思ひも及びますまい。何故なら一燈園生活の托鉢者は勞働力を絶對に價格にのぼして賣ることをいたしませんから。

近頃、ラッセルの「所有欲創造欲」の說やら、モーリスの「勞働の藝術化」の高唱を耳にいたしますが我が論壇でも相當持囃されてゐる樣子であります。これは結構なことゝ思ひますが、極不完全ながら、一燈園ではとうから實行させて貰うてゐますで、本家爭ひする意ではありませんが、今更らしくラッセル、モーリスをさう囃し立てんでもとの氣持もいたします。實はこれは又一燈園の新發明でもないので、あらゆる祖師開山達の行履を究めますと、寧ろ鮮かすぎる程にハッキリ出てをりますのです。

大分話しが混線して來ましたですが、次に申上げたい一燈園生活の清規は「私が惡い」と先にあやまることです。

先年、園ではある御家庭から身を持ち崩された二十四歲の若者を預からせて貰うたことがあります。園に來てからは、ちよつとも惡いことがないので、よく事情を聞いて見ますと成程とうなづかれるふしが多かつたです。

その方の言葉に、

「わしは何もすき好んで朝寢したいことはないのですが、今朝から早起してやらうと思うて起き出すと、妹はじめ女中までが、ひやかし半分なそぶりをするので、いま〳〵しいから、時には我慢して十一時頃まで寢込んでやるんです。親父が銀行に出掛けた留守を見計らつては家を拔け出して行つて、貸して吳れるもんですから、ツイ飲み步くことになるんです。

實は一燈園へやると家で言ふから、そんな感化院臭い所へなど三日と行つてをれるもんかと、馬鹿にし半分來て見たのですが、あなたに最初お會ひして話してゐる中、『わしも惡いんだから』とあなたに言はれて少々あてが外れまして、ツイおいて貰ふ氣になりましたのです。園にぶらつとしてゐるのも手持無沙汰なもんですから、園の人の後について五日程托鉢しましたら、忘れられん出來事に出會ひました。托鉢先で『あんた、お若いによう氣ばりやすな。家の悴にどうぞ意見なとしておくれやす。』と言はれた時には冷汗が流れました。」

これは私が歸園の途中、供養の米俵を車でひいて歸る彼に行逢ひました時、後押手傳ひながら聞かせて貰うた告白なのです。家ではあれが居るとあれの顏を見ると拾年も壽命が縮むと兩親不斷の心勞の種であつた彼が、かう數日を出でざるに甦生されるとは奇蹟ではありませんか。實に三日に

の立直つた著しい例とすることが出來ると思ひます。環境が悪いと、お互誰でも弱いのですから、善うならうとしても中々うまく行かんもんです。今の世はいづこを見ても、餘り環境がよろしいとは申されますまい。「人を見れば泥棒と思へ。」泥棒扱ひされゝば泥棒もしたくなるが人の性情。かうまでしなければ立たんのが世間普通の生活か知れんが、さりとは餘りに不合理すぎる。

かういふ話を聞いてをります、ある僧侶が大和の國巡り中とある川縁で受鉢を洗ひ浄めて居りましたら、傍に村童があらはれて

「おつさん、つい向ふにもつときれいな流があるがな。」と言ふもんですから、一つ教化してやらうと思つて

「坊主といふものはな、きれいのきたないのと言ふものでない。」と申しますと

「そんなら、なぜ洗ふのや。」との言葉に和尚さんすつかりつまつて了はれたが、その凡ならざるを看破されて、「強いて乞うて養子に貰ひ受け拜み〱育てましたのが、後の有名な源信和尚なさうです。

これとは正反對な話があります。實見者に聞いたのです。汽車中、東京者らしい避暑地行母子連の話。子供がお母さんに

「蓄音器のラッパを忘れましたね。」

「ラッパがなくてもいゝぢやないの。」

「頭のない人形のやうぢやなくつて。」

するとお母さん何思つたか、

「お默んなさい。」と言ひさま、子供の頭をたゝいたさうな。

これでは、源信和尚は出來つこはないと思ひます。やかましい不良兒の問題も或は養育者の方に責任の大半はあるのではないかとも感ぜられないではありません。

こどもは本來なら普通考へられてゐるよりズット具合のよいものらしい。新生涯の托鉢者にとりましても、決して手足纒にならないばかりか、「子ひきの乞食は貰ひが多い」例しに洩れず、惠まれることが豊かなものです。これは私共ばかりかと思うたら、同人清水精一さん(大阪府三島郡の地主さんで、今は天王寺村で生活ぐるみ乞食の群に投ぜられ、乞食から勞働者造りつゝある人)の實話によりますと、乞食さんについてもほんまなさうです。

世に乳呑子の食物ほど自然なものはありますまい。それは減らんのであります、爭の種子にならんものであります。張り切つた乳を呑まれる母親は、呑まれて反つて樂ですし、呑んだ子も腹がふくれてよい氣持になれるもんです。私が三十二歳にして新生涯への轉機に立たされた時、「この食なかる可らず。」との暗示を與へてくれたものは乳呑子の食物でありました。今の教育を觀じますに、一生懸命のお方も可なり居られ、色々御苦勞をおかけ致してゐることでありませうが、根本に於いて、生存競爭に刺戟を與へてゐるやうな嫌ひがあり



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

はすまいかと杞憂されますが如何なものでせう。平常の學修から考査試驗に至るまで、他を凌ぐやう人と競爭して負けないやうといふやうに教師から仕向けられますので純な子供の魂は隨分汚されてゐるかのやうに思はれてなりません。

次は一燈園生活者が病氣の時はどうするかについて述べませう。病氣すれば死ぬまでの事と常々觀念はして居ますが、今日までに病氣した方に對してお醫者さんと藥とのないといふことはありませなんだ。京都では大學病院長をして居られた松浦さん濟世病院長の小林さんなどゝもおつれにさせて貰うて居ますし、先頃は九州佐賀縣から、家族ぐるみ一燈園に投ぜられた醫師さんも居られます。藥は大阪の竹田長兵衞さんとこが托鉢先になつて居りますので、いつも有り餘る程いたゞかせて貰うてゐます。

それから冠婚葬祭ですが、これも味よう出來てるやうです。葬儀の方から申上げますが、身寄りの者中から荷厄介にされた老婆を、一燈園はある因緣で預からせて貰うたことがありますが、始終病身でして、此度こそもうあかんといふ時、私は乘引きならぬ御用で東京へ立たねばなりませんかつたので、後事を、畏友足利淨圓さんにお托しゝて行つて了ひました。私は東京で死んだといふ電報に接しましたのですが、數日經て歸園してからの話、老婆の義弟半二郎さんにお會ひした時、こんなことを聞かされました。

「天香さん、わしはあんな葬連にあうたこと御座いません。」

「あんまり貧弱でゞすか?」と問ひ返しますと

「いや、ほんとに葬儀らしい葬儀でした。それは貧弱と云へば形の上からは、僧侶が一人會葬者七人といふのですから可なりな貧弱さでしたが、けれど金も一向いらず配り物や何かについてのやゝこしさ氣苦勞はなし、淨圓さんが端座されて御經をおあげ下さつてる間、しんみりして心から菩提を祈りたい氣持になれました。」

と述懷されました。親鸞上人さまも「屍は加茂川に棄てよ」とまで仰せられてある位ですから、葬儀はかうしたものでよいのか知らんとも思はれます。

一燈園同人同志の結婚も幾組かありました。同人同志の間では收入とか財産とかの取調べは必要ありません、もと〳〵無に立たせて貰うてる生活ですから。結納の取りかはせは、世間なみの形式にこそ依りませんが、一生通じて責任を持たせて貰ひます。文學士さんと女子大出の方との結婚の時も、新郎新婦とも晝まで托鉢されて午後に擧式いたしましたのです。式は簡單であるが可なり嚴肅にお光りの前で行はれましてす。私が司會させて貰ひ同人の有志が式辭を述べられ居合せた同人一同と共にさゝやかな併し心をこめた晩餐會をやつてもうおしまひです。

大原女で有名な大原地方の嫁入りの遺風には面白いところがあります。嫁にやる家と貰ふ家との間に次のやうな問答をするのぢやさうです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

「たべるものは、あるかいな。」
「どうかかうかくへる。」
「そんならもらうてくれやんせ。」
「どうかかうかくへる。」は振つてるではありませんか、これで澤山だと思ひます。お互がお光によつてさへ結ばつて居れば、色々な詮議立ては要なき術でありませう。

私の家内は杉本さんといふ縮緬の練問屋に托鉢させて貰うてゐますが、同家の婦人だけの新年宴會に面白いことがあつたとて聞かされました。それは席次をきめるのに別に標準もないものですから、御亭主さんの俸給額に依つたのださうです。すると堂々たる學士の夫人でも永年勤續の番頭さんの女房よりか下位に座らんならんことになつたのださうです。悲慘といへば悲慘皮肉と云へば随分皮肉な話です。ところが私の家内をどこに据えたらいゝのやら解らなんだといふのです。なぜかつて、月給をわしも家内も受けて居らんから結局零だから、最中がよからうといふことになつたといふ笑話です。

京都の聞えた人形屋の娘さんと救世軍の方と情死した事件がありましてすが、感覺的に肉感的に愛を感じ合つた位で結ばつたのでは仕様がない、主觀だけでは危ないものです、心身生活を引つくるめて根底から整理しての上の合はさりなら初めて大磐石だと思ひます。

でも家もないに結婚しては不自由でないかと問はるゝ人もありますが、この生涯には特定の家はないかもわからんが、至る所に住み場所はあります。一升の桝に豆を一パイに盛ればもう一粒かて餘計には入らんけれど、水なら豆と豆との間にもぐつて可なり入るものです。近頃都會地では住宅難の聲をきゝますが、お互がこの水の態度にさへなり合へば、或は今ある丈でもあり餘るのではないかとも察せられもします。

「父の家には住居多し。」と聖書に書かれてあるさうですが、私共の覺束ない歩みぶりでも、此の事はハツキリ肯定されます。一所不住といへば、何日何處へ召されるやもわかつて居ない身でありますが、奇體に「明日のことは思ひ煩はされません。」三稜形の底邊みたやうに下座の立場であり、又零の生活でありしますで、割に安定な(?)かも知れません。

私が始終この引つぱり姿で居るもんですから、「天香は零の生活だとか無執着の立場だとか言うてるがあの姿にはキツト執着があるだらう。」とある辯護士さんが評してるといふことを、つれの檢事さんからお聞きしたものですから、ある席で三人落ち合うた折、

「ではあなたの着物と私の引つぱりとお取替え下さい。」と、半ば冗談に申しましたら、辯護士さんは發作的に「それは困る。」と言はれたものですから、「そんなら、君の方こそ着物に執着があるのでないか。」と、つれの檢事が一本やりました。こんなわけで私は何もこの姿に執着とてはないのですが、世間の紳士淑女の着けられてゐる服装は随分荷厄介で不便を感



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ぜられる場合が多々これある事と考へます。私共の服裝は何時の出動にも常に用意してあるのです。着換えることも締め直ほすこともいらん、このまゝすぐ動き出せるのです。御婦人にしても、襟を汗じませまいと持續的伸べ頸の藝當は、見てをる方でも樂ではありませんから、ご本人はさぞかしと推察されます。

併し此の托鉢衣も時には不便を感ぜられることもないではありません。先年、托されて居ります秋田の方の山へ見廻りて行つての歸途、汽車がおくれて上野驛に、夜半に着きましたのですが、驛附近の宿屋軒別あはれみを乞ふ樣にして賴み歩いても、とうど泊めて貰はれませんでした。已むなく、電車もないもんで麻布の方まで疲れた足を引きずつて、堤淸次郎さんの宅まで辿り着きました。前に電報打つてありましたので、床を延べて待つてゝくれられましたのです。これは又托鉢衣のお蔭ぢやと有り難くなりました。

殊更奇を好んで異樣の風をすると取られましては困りますが、世間の多くの方が、柔か物〳〵と時好を追ふ傾向が餘り甚だしいので、着たうても着られん人も少なくなからうとも考へられまするし、こんな格好をし通してゐるやうな次第であります。

この生涯に立ちますと、又幾分稱氣とでも名づくべき情味も出來て參るらしいです。家內など此頃少さな玩具のバスケツトなど買ひ集めては賞でゝゐます。一日の托鉢をすまさせ



て貰うて歸園する途中、よくあの二條木屋町の乘換場所で待合はすことにしてゐますが、私が先きの時など物影に隱れて居て、ワツと家內をだまかすことなどもあります。そろ〳〵年も寄つて來ました、あと十年もしたら良寛さんの弟子入りさせて貰うて日なたぼつこで子供と手毬位はつけさうです。

お光の方をヂーツと見つめれば「日々是好日」「柳は綠花は紅、」このまゝでよい、てた實相もつかめないではありません。こんな歌を記憶してゐます。

「いつも三月、常月夜、女房十八俺二十、死なぬ子三人皆孝行、へらねお金がいつも百兩。」

えゝ具合ですな。

「一鉢千家飯、孤身幾何秋　無樂又無憂　不空亦不色日暖堤頭草　風凉橋下流　人若問此六　明月水中浮」

とは、淀川堤の犬走りに行倒れになつて居た乞食爺さんの懷から取り出された反古紙に書かれてあつた文句とか聞いてゐます。

「一燈園生活とは何ぞや。」「何々主義か。」「所有權を認めるか。」などと疊みかけられては答に窮して了ふ外ありません。何とか名をつけたり、きめて了ひたがるのが知識であり主觀であります。眞に如實に理解して頂く爲めには「どうぞ御自身とやつて御覽下さい。」と申上げるより仕方がありません。

づーつと以前、まだ一燈園の建物もなく、今の家內の篤信なお袋が、六疊の一間よりない家を私共の爲めに使はせて呉

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

れとる時分の事です。近角常觀さんや何かえらい方々に訪ねられたのも此の家でしたが、人の出入りが貧弱な家不相當に賑やかな爲めでしたらうか、その老婆に警察から呼出しが來たのです。警察と言ふと縮む程嫌ひな老婆さんでしたから私が附添になつて訊問を受けに參りました。大體次の様な對話があつたやうに覺えてをります。

「お前は何者だ？」

「私は附添です。私が此老婆の家に居りますのでお呼び出しがあつたことゝ存じますので代つてお答しようとて參つたのです。」

「さうか。一體何處の生れだ？」

「滋賀縣長濱です。」

「籍はそこに置いてあるか？」

「籍は北海道にあります。」

「今は何處に居る？」

「京都に居ります。」

「妻子はあるのか？」

「はい。」

「何處に居る？」

「郷里に居ります。」

「なぜ呼ばんのだ？」

「呼んでも中々來て呉れません。」

「何をして居る？」

「別に何もして居りません。」

「財産はあるのか……」

「ありません。」

「では何して食べて居る？」

「つい、よばれて居りますので」

巡査さんの眼が異樣に光つて來ました。

「よばれて居るつて？」

「はい。」

「一日二日ならよびもしようが、さう何日も〱よぶ家はなからう。」

「でも毎日よばれてをります。」

「ほんとうの事を言へ。」

「はい、それがほんとうなのです。」

「そんなことがある筈はない。もつと正直に言はんか？」

「先程から私はほんとうなお答を正直にしやうと務めてゐるのです。」

「一體お前は宗教家か？」

「――と言ふわけでもありません。」

「では何だ？」

「何々であると、今では申上げにくゝなつて居るのです。あちらこちらで頼まれます事をさせて貰ろて居るだけのことです。」

「人が澤山お前の所へよると云ふではないか？」



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

「はい、私が此の老婆さんの家に居りますと、そこへおつれが來て下さるのです。」

「ぢや、やはり宗教家のやうなものなのぢやないか？」

「かもわかりません。」

「かもわからんとは何ぢや？」

巡査さんの聲は段々荒くなつて參りました。

「けれどもさうより申しやうが御座いません。」

「佛教か？」

「でもよろしいやうです。」

「キリスト教か？」

「さうのやうでもあります。」

「神か佛か？はつきり言へ。」

「一寸うかゞひますが、そちらから、神とはどう云ふものか佛とはかう云ふものだとおつしやつて下さつたら私も御答さして貰ひます。」

「神は神だ、佛は佛でないか？」

「へい」

後は何とも向ふにも申されませんので、暫らく沈默が續きました。

「これから、ちつと心得るがよい。」と云はれましたが、何を心得てよいやらわからなんだのです。すぐ

「もう歸れ。」と言はれましたから、叮嚀にお辭儀して、すご〳〵歸らして貰らひました。

まあかういつた調子で、一燈園生活はかう〳〵とはきめにくいのであります。又強いてきめるにも及ぶまいと思ひます。

今、國内海外の模樣を眺めさせて貰ひますのに、可なり行き詰つて居るかに觀ぜられます。私共の力はもとより微にして言ふに足りません。たゞ微力者は微力者ながらに、背水の陣を布いて命かけになつて、眞平和將來のいのりを心こめてさして貰うてる次第であります。或は獨りよがりかも知れませんが、若し幾分でもお心に觸れるふしでもござんしたら、どうぞ充分御檢討下さいまし。此頃は東京にも十數名の托鉢者が常備なりますで、お家に御用でもあります節は呼んであげて下されば仕合せです。

（大正十一年二月二十四日實業之日本社に於ける講演、松下生筆記）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

# 獨白

八田勝三

○

某日中野なる東京市療養所へ行く。武藏野の春は未だ淺かつた。枯草と斑雪との調和された野を、撫でるやうに愛しんで居た眼眸に突如うつつた窓際に聳ゆる赤練瓦の尨大なる建物！おや監獄だなと意識する瞬間、矛盾――不合理――呪咀――社會の罪と云つた樣々の觀念が、幻のやうに腦裏を横切つた後、漸く矢張り私達の罪だと點頭いて、魂は苦悶に慄へ乍ら懺悔する。此間殆んど間髮を容れない數刻に過ぎないけれ共、時には「一切の罪は私達の罪だと考へて居ります」と云ひ放つ同人として、何と云ふ情けない傲慢な心だらう。理性では自他一體を肯定しつゝ、感情は直感す可く餘りに功利的思想に痲痺し過ぎて居る。近づけば拳銃を背負うた看守の冷たい看視の下に鐵鎖を曳き摺り乍ら、柿色の色褪せた獄衣に囚人は默々と働いて居る。運命に忍從した寂しい姿！直ぐ樣走り寄つて囚人達の前に於いて詫び度い程の衝動に馳られつゝも、敢行する勇氣も無く「何卒御赦し下さいまし、等のみが惡いのぢやありません。卿等は單に社會惡に禍せられて、お氣の毒にも私達の犧牲になつて下さつたのです。愛の足りない世界の爲、纖弱い乍らも祈らせて貰つて居る私達の生活に、何時か蘇つて過去の悲しみから何卒救はれて下さいまし」斯う泪ぐみ乍ら默禱しつゝ、寂しさの曠野をさまよふ心地に通り過ぎた。噫私には何時火の出るやうな愛が眞に湧き上つて來るのだらう。

○

春の或る夜、東京市療養所に托鉢中の古川樣と谷野樣とが街からの歸途貰つて來られた佛畫を、寢室の一隅に安置して開眼供養を行はれた。さて各から何か供養を捧げる段になつて、一寸四邊は靜かになつたが、やがて入園後間もない青年畫家の迎樣は

『私には過去の生活の一部とも思はれて居た長髮を捧げさせて下さいまし。』

とてM夫人が美の世界の象徵を一つ失つたと嘆かれた、美くしい黑髮を切られる。愛煙家だつた谷野樣は、

『それでは私は今日迄如何しても斷ち切れないで居る、煩惱



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の煙草を、佛樣の前に捧げさせて頂きませう。』と度ましく申出でられる。すると古川樣は、

『不二の光明に救はれた日が、早や一年の足跡を印して廻つて參りました。私は今後益々精進堅固に祈らせて頂く爲、月の內更生の日廿四日を行乞に捧げ度いと思ひます。』

と話されると、看護婦の佐野樣は、お碗に、『今後總ての人を赦せるやうに』と祈りを籠め、舛山樣は、お茶碗に『一生怒らないやうに』と誓はれて、古川樣の行乞に捧げて下さつた。

斯くて谷野樣の靜かな讀經に、惠まれた春の夜は更けて行く。大佛殿の莊嚴は無くもがな、居合さなかつた私は、このさゝやかな尊とさを伏し拜んで、貧しい一文を草し、佛樣の前に捧げて皆樣と感謝致し度い。

○

戀愛は完全人を創造せんとする欣求の情であり度い。結婚は祈りの延長であり度い。而して愛の普及者としてのみ後繼者を許し度い。過去の私達は妥協を本當と思ふ位迄、無意味に戀し、結婚し、子供を作つて居たのではなからうかと思ふ。若し種の保存以上に、今少し靈的なる動機の此の間に存在せしならば、人類は疾くに一元の世界を遊歩して居る事と思ふ。若人よ！　今後は因襲に、黃金に、環境に、はた性慾に妥協して、僞の結婚をなす勿れ。快樂の產物にメシヤを求むるは神に對して冒瀆である。

愛の托鉢の途上に於て、肉體の死の計り難く、火宅の苦惱の中々に除き難きを嘆く男女の祈りは、遂に結婚として現はれ、愛の普及者として後繼者を求むる願望にまで高調する。そこに地上に天國を來す第一歩が築かれ、人類愛の象徵が生れるのぢやなからうか？若しそうとすれば、量よりも質へてふ標語の下に、例へ世界の人口が減少しても、私達は輕重本末の誤らぬ結婚をなす可きである。

○

眞の結婚が營まれるには、より多く女性の自覺を必要とする。數千年の星霜は何時か男性の世界を造り、物質文明に行き詰まらむとしつゝある。兩性を一體とした第三人格に眞人に近いものが創造されるのであつて、一方のみにては何れも不完全であると說いて居るリツプスの言から、調和された世界は男女相融合して完全人の生活を創造する所に完成されるのだらうと思ふ。女性よ！男性の專橫に泣き乍ら隨いて來るのはもう止すが好い。英國に對する印度のガンデーの運動のやうに、妥協的結婚は絕對に拒否せよ。それが眞に目覺めた男性と共に、より善き世界へ到達する一番の近道であり、人類を本當に愛する者の當然成す可き義務である。

○

時計がある爲に、人は眞劍に現在を生きるを忘れて、時間を空費して居る時が可なり多いやうである。これは寂しい事實だ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

# 愛に關する一考察

中桐確太郎

左は、私が、昨年の夏、或る講習會にて申述べましたもの丶筆記錄の一節であります。『愛に關する考察』が、あちこちに發表せられてをる折柄ですから、御參考までに、茲に掲載させて頂きます。御叱正によりて、間違の點を改むることを得ば難有きこと丶存じます。

## 一

愛とは何ぞや、と申すことは千古の問題でありまして、プラトーン以來、有島さんの『惜しみなく愛は奪ふ』に至るまで、殆んど、すべての方面から論じ盡されたこと丶思ひます。私の考察の如きは、所謂る『遼東の白豕』かも知れませんが、多年懷抱いたしてをりますものですから、一應申述ぶること丶致します。

人は社會的生物と申しまして、群居して團體的生活を營みてをりますが、その生活の間、種々の機緣に觸れて、自分と他人との一體であることを感得體驗することがあるのであります。此の自他一體感に伴うて一種の情が生じ、その情は其の自他一體たるの事實を具體的に顯彰せんことを欲求するのでありますが、愛といふ心識は、此の感と情と欲求との總合より成つてをるものであると私は思ひます。

愛は二つのものが一つとならむとする欲求であると解せらる丶を常と致しますが、私の見解では、本來一體であるものを、全く別々のものとのみ思ひあやまつてをりました知見が、何等かの機緣によりて破れ、その實、一體であるといふことを發見し、その一體であるといふ靈的事實を具體化せんとするのが愛であると思ふのであります。一體とならんとするの要求でなくして、既に一體たることの覺識とその體現の要求とであると解してをるのであります。

愛はまた奪ふことであり獲得であると解せられてもをりますが、私は、新たに獲得せるのではなくして、その獲得せるやうに感ずるのは、自と他との一體なることを發見せるに伴ふ一種の擴大感に外ならぬこと丶思うてをります。

愛はまた、その根本的衝動を創造といふことに置くものとして說明せらる丶こともあるやうですが、その場合に所謂の『創造』は、私の所謂る具體的顯彰の活らきに伴ふ一つの現象



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

に過ぎぬのではあるまいかと私は思うてをります。

併し是等の諸考察に對する論評等は今は略しまして、私自分の所見につきて、少しく説明を加へて見たいと思ひます。

## 二

凡そ人間に於て最も自然に、最も原始的に、又最も濃やかと思はるる愛は、母親がその子供に對する愛情であらうと思ひます。如何なる生物でありましても、その間に必ず行はれてをります愛情は、母親の愛情であるやうに思はれます。人間の家庭に於きましては嚴父慈母と申します。父親も勿論子供を愛せぬのではない、併し是は嚴父であつて何だか理性が主になつて、自然濃やかでないのでありますが、母親の子供に對する愛は、何となく、自然的で濃やかであり、情け深いといつた所があるのであります。何故母親の愛が子供に對して自然的、原始的であるかと申しますと、母親と子供とは本來一體であつたといふことを母親は曉らざるを得ない事情に置かれてあるからであります。卽ち妊娠、分娩、といふことに依て本はお胎の中に入つて居つた、一體であつたといふ此ことだけはどうしても、知識的に知らないでも、無意識的に曉らざるを得ぬのであります。父親が果して子供と一體であるといふことは容易に分りませぬけれども、母親は自他の一體たることを動かすべからざる事實として體驗するのであります。これは物質的解釋のやうでありますが、母親の愛の原始的であり、自然的である一の理由であらうかと思ひます。

同一の人を父と呼び、同一の人を母と呼び、同じ家に住み、同じ食卓に就き、同一の姓を名のり、同樣の着物を衣、大概の場合に於て同一といふことを知らされてをる。是れ內では互に喧嘩をしても外其侮を防ぐといふやうな兄弟の愛の起る所以でありませう。同じ學校に居つたといふことだけで、何となしに自然になつかしき感をいだき、初對面のみで十年の知己の如く感ずる。外國に遊んだ者の何人も經驗する所でありますが、只同國人といふだけで、何とも言はれない親みを感ずるものであります。どんな商賣をして、どんな人格の人であるか分りませぬ、どんな性質の人でどんな氣持を持つて居る人か分りませぬけれども、唯同國人であり、同じ日本人であるとか、或は同じ縣の人であるといふだけで、何とも言はれぬなつかしさを感ずる。外國で交はりました一二年の友は、內國に於ける十年の友達に相當するとさへいはれてをります。外國に居りましては、鄉國を同じうするといふことが妙に人の感情を動かすものでありまして、支那の詩に、君家住何處、妾寓在橫塘、停船暫借問、或恐是同鄉。といふのがあります。支那は所謂る南船北馬で、南方には運河が四通八達し、船の往來殊の外に繁いのですが、到る處の船つき場には澤山の遊女が居ります。舟を操つて來て、客を誘ふのですが、此の詩は長干行と申しますから、今の南京邊の當時の事情を詠じたものでせう。旦那樣の御寓はどちらでございまする

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

か、自分の家はすぐそこに御座いまする。御言葉の調子によりて承はりますれば、同郷の方のやうにも思はれましてなつかしう存じます、どうぞ宅にも御立寄り遊ばすやうといふのでございませうか、故郷を遠く離れた旅客にとりては、同郷のものが居るといふことが殊になつかしく感ぜられて、情を動かすのであります。本當に深き愛情は唯さういふ國が同じいとかいふやうなことから出て來るものであるかどうか、といふことは別問題であります。しかし兎に角同一といふことを知らしめられたることによりて一種の愛情がそそられることは事實であります。をかしい話でありますが、東京女子高等師範の學生が途中で道を尋ねる場合に誰に一番先きに尋ねるかといふと、男子の高等師範學校の生徒であります、未だ一面識もない人であつても、只帽子の徽章によりて同じ高等師範の學生といふことが、わかるだけで、何だか他人でないやうな心持がするからであるといつて笑つて話された女子高等師範の學生がありました。同學の友が兄弟の感を有し、信仰を同じうする者がブラザー、シスターと相呼んでをるのは實感でありませう。此の如く、何等かの機緣によりて、自と他と一體である、少くも、何かによりて一つにつながつてあるといふことを覺知する時にそこに愛情が生じます。愛といふものは總べて——只瞬時の會見に百年の命をも惜まぬといふが如き戀愛にても、愛といふ愛は皆此の自他一體感によりて說明することが出來ると思ひます。

## 三

以上申述べました通り自分と一體であるといふことを感じた時に愛情が起るのであります。而して其感情が具體的に現はさうといふことは愛情の自然の要求でありますが、此の具體的に現はすといふことは、詳しく申しますと、自分と他の人とは本來一つであるといふことを靈的に經驗致しました場合に、その體驗を自分の身體及び精神をとほして他に對して現はさんとする要求を感ずといふことであります。今『他に對して』と申しましたが此の他といふ見方に二つあります。其の一つは範圍の廣狹とも申しませうか、自分が對する他といふものには一個人の場合、一家の場合、一國の場合、全人類の場合、一切他の場合、など色々ありますが、要するに自分の肉體以外のものは他であります。それからもう一つの見方は、他でありますけれども、自分と同じ樣な自他一體の感じを持つて居る人と未だ同じ程度には持つて居らぬ人との區別であります。

かういふ區別がありますが、此の區別から色々他といふものが違ひますので、自他一體感を現はす相も、大體次ぎのやうに別けることが出來ると思ひます。先づ(第一)に、自他一體の體驗を持つて居る人が同じ自他一體感を持つて居る人同士で現はす相が一つ、それから(第二)自他一體感を持つて居る人が、未だ同じ程なる自他一體感を持たない人に對して現はす場合が一つ、それから(第三)明かなる自他一體感を持た



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ない人が、自他一體感を持つた人に對して現はす場合が一つ、それから(第四)明かなる自他一體感を持たない人同士が互に現はす場合、即ち總計四つであります。

## 四

自他一體感を持つて居る人同士が互に現はす愛情は融通無碍であります。どんなことをいたしても、お互同士に何等の惱み、何等の障りもなく、甚だ自由の交りであります。古くさい例でありますが、管仲と鮑叔との交、管仲と鮑叔は中の善い友達でありました。私の言葉で言へば自他一體感を有してをる仲間でありましたが、管仲と鮑叔とは物を別ける時分に、鮑叔がいつも餘計取るが、管仲は少しも之を怨みません。何時でも何んでも都合の好いことばかり鮑叔がします、管仲は少しもそれを怒りません。人によりては彼奴一つ餘計取つた、怪しからぬといふやうなことがあり勝でありましたが、どんなことをされても何とも思はなかつたといふことであります。相愛して居る者は、相手にどんなことをされても惱みが出て來ないものであらうと思ひます。殺されても怨まず、斬られても痛みを感じないかとも思はれます。私は子供の時に泉鏡花といふ人の小說を愛讀いたしました。そのうちにたしか『國民の友』といふ雜誌の夏季附錄に載つた『外科室』といふのがありました。其筋は極簡單でありますから申して見ますが。或婦人が若い時にたしか植物園か、さういふ處に於て散策の間に或大學生を一寸垣間見て戀愛を感じたのであ



りますが、つひに言ひ寄るすべもなくて、其婦人は他日或公爵に嫁つぎ子供も幾人か出來た。さうして居る間に病氣に罹つて、外科手術を受けなければならぬやうになつたのであります。其れはたしか腹部切辨といふ大手術でありますので、麻睡劑を掛けなければならぬのでありますが、其婦人はどうしても麻睡劑を用ゐることを承諾しませぬ、夫はさういふ譯の分らぬことをお前言つてはいけない、何故そんな無理なことを言ふかといひますと。私に一つの秘密がありますから、それを麻睡劑をかけました時分に思はず口外するやうなことのあるのを恐れますのでと申しました。『どんな秘密があるか』。『それは申上げかねます』『夫に申すことの出來ない秘密か』『どうぞ御免し遊ばせ』といつて口を噤みますので夫公爵は大に腹を立てました。併し療治をしなければどうしても癒らぬので、醫師に相談をいたしました所が、醫師はさういふことでありますならば、麻睡劑を用ゐないで施術いたしませう。宜しうございますか。夫人は宜しいといふ。そんならばといつて、淸らなる膚に向つて刀を執つてスカツとやりました。鮮血が雪の肌を迸つた。その時婦人は手を出して其メスを持つてをる醫師の手を摑みました。醫師が痛みますかと問ねますと、夫人は『イヽヱ痛みませぬ、あなたなればこそ……』、言ひもはてぬに摑みたる醫師の手を其儘強く持ち行き、自ら其乳下をかき切つて、死んで了ひました。其醫師も此有樣を見まして流石に非常に落着いた人でありましたが、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

すぐその同一のメスを以て自害して死にました。その醫師は曾て拾數年前に垣間見し、思慕忘るゝこと能はざりし大學生であつたのであります。子供の時讀んだ話ですから、記憶の間違が或はあるかも知れませんが、大體以上の樣な話であ**まして、其當時非常に感じたものでありました。**是は勿論一つの小說でありますが、眞に愛してをる人の刀であるならば痛まぬかも知れません。殺されても何の怨みもないのでありませう。俗にも親子喧嘩や夫婦喧嘩を取扱くのは馬鹿らしいといふことでありますが、本當に相愛して居る仲ならば、少し位喧嘩をやりましても、一晩經てば其感情はなくなると見えます。相愛する者同士の間に於ける自他一體感實現の相は本當に融通無碍であります。

## 五

第二の自他一體感を持つて居る人が未だ明かには持つて居らぬ人に對して懷く感情は、特別に之を慈愛と申します。勿論、人は如何なる人に對しても毫も自他一體感を有せぬといふことはあり得ぬのでありますが、自分に對して自體一體感を持つて下さる方に對しても自分は未だ自他一體感を明かに懷き得ぬといふこと、即ち愛して呉れる人に對して、愛情を感ずることの甚だ稀薄であるといふことは往々あり得ることですが、かゝる場合に自他一體感を持つて居る人が、自他一體感の未だ明かならざる人に對する時の感情は、之を慈悲、或は慈愛、と申します。母親が其子供に對するの愛は即ち是でありませう。子供は母の愛の何たるを知りませぬ、その自他一體感は甚だ朧げなるものでありますが、子供と自分との一體たることを體驗してをる母親の愛は此世に於ける最も自然的なる慈愛であります。但し其對してをる他は、自分の生みたる子供でありますが、若し其對する他が非常に廣くして一切の他に及ぼし、一切の他と自分との一體であるといふことを感ずるならば、その人は大覺者、或は大聖人、大哲學者、大宗教家でありませうか。斯ういふ一切他に對して一體感を持つて居る人が一切の衆生に對して感ずる愛は、是は大慈大悲であります。丁度親の愛、親が子供に對して懷く愛と同じ樣であらうと思ひます。此の如き愛の働く工合はどういふのでありますかといふと、或は順、或は逆、決して一樣ではありませんが、普通には己れを犧牲に供しまして、他人の要求を滿足せしめるといふ風に現はれて參るを順といたしてをります。自分の事を犧牲にして衆生のためにする、まだ一體感を持たぬ人の要求を滿足させやうとする働きでありますが、凡ての人の至切の要求なるものは、まづ第一に天賦の性能を自由に活動發展せしむることに外ならぬのでありませう。親が其の子供に對して有する至情のあらはれである敎育なるものが、その子の賦能の活動發展の自由を與へんとするのにあるのでも明かであります。併しながら人間至心の要求は只此意味の自由だけではない。よし如何にその賦能の活動を滿足せしむることが出來ても、その間に相和し、相親しむの情がなく、五



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

に反目嫉視してをるならば、此世は卽ち修羅の巷である、人間は此の如き狀態を悅ぶものではない。勿論人には優越欲もあり競爭の心もある、もし互に相愛するものゝ間に行はるゝならば、何のさはりもない、所謂諸種の競技の如く遊戲三昧で行はるゝので、極めて結構なことでありませうが、その人々の間に何等愛情がない時は、凡て惱み、悶えが伴ひ來るのでありませう。世の中に最もつらいことは繼子扱ひにされ、仲間より疎外せらるゝことでありませう、人にも愛され、人をも愛しつゝ行くといふことは、これまた人間至切の要求であります。愛の基礎の上に立ち、愛の空氣に浴しつゝ、その天賦の性能を自由に活動發展せしむることを得るの鄕これ卽ち天國淨土でありませう。天國淨土とは靈的風光を別にしてその本質につきて申せば、要するに愛と自由の國土でありませう。そうして天國淨土を此世に來さんとすることは人間至心の切望でありますから、一切衆生と一體たることを感じつゝある人の大慈大悲の活きは、天國淨土を此世に將來せんとすることになるので、これが卽ち宗敎なるものゝ此世に現はれたる所以であると思ひます。

　但し天國淨土を此世に將來することの活きは、見樣によりては、人間界の凡ての活動皆これであると申しても可いのであります。只自他一體感に動きつゝある人がいまだ自他一體感の朧げなる人に對してならはす活きは、前にも申しました通り、その身を犧牲にして、他の要求を滿足せしめんとすることを常といたします。殆んど無意識的に自然に發動するものもありますし、または懺悔の念によりて活くものもありますが、いづれにしても、献身犧牲の活きは、此の場合に於ける愛の働きの自然法爾の相であると思ひます。

## 六

　此の自然法爾の愛の活きによりて、萬民に生具し、潜藏してをる自他一體感が相感應し、共鳴し、こゝに愛の活きの第三、第四、の相が出て來るのであります。所謂、親の愛、子に活らきて、子はその親を敬し、兄弟互に相愛するに至るものであり、また所謂『神、我等を愛したまふが故に、我等神を愛し、また互に相愛する所以を知る』に至るのであります。一切衆生は本來一體なものでありますが、所謂知識によりてその事實を認めてをりません。是れ所謂禁斷の木の實を食した後に活ける知識、佛敎にて無明と申すものゝ迷ひでありまして、此迷ひの雲が自他一體感より出で來る自然法爾の光によりて破れ、光々相融けあふのでありませう。慈悲のあらはれに對して敬愛、尊信、景仰、等を懷くこれ第三の相であります。未だおぼろげなる自他一體感を有する我等衆生もまた自から所謂る道德の黃金律といはるゝ『己れの欲する所之を人に施せ』といふことや『己れの欲せざる所、之を人に施すこと勿れ』といふことの守るべきことを知るのでありませう。井上哲次郎博士は嘗て前者は西洋流の積極的、後者は東洋流の消極的と區別せられたとか聞きました、或はさういふ區別

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

があるのか知れませんが、いづれにしても、人間道德の綱要でありまして、他人の要求を滿足せしむることを主といたしてをります。これ卽ち愛の活きの第四の相でありますが、此の第三、第四の相は、第二の愛の活きの相をやどしてをります。**卽ち歸依渴仰せるものに對して献身犧牲的なることは自然でありまして、**頗ぶる宗教的の趣きをそなへてをります。第四の相も己れの欲する所を人に施すにしても、己れの欲せざる所を他に施さゞらんとするにしても、自分の要求を多かれ少かれ犧牲に供するを要するのであります。只第四は第三に比して自然的の趣きが乏しいといはねばなりませぬ、第三を宗教的といふならば、第四の相は道德的なりといふべきであります。

併しながら、更に一歩を進めて考へますれば、愛の活らきには、凡て道德的なるものがあるといふべきであります。このことにつきては、尙ほ次ぎの機會に申述べて見たいと思ひます。

庭のつゝじが眞赤に咲き揃つた。石榴の枝には赤褐色の細かい芽が一面に吹き出た。椎の木の繁みで每朝鳴き競つた三羽づれの鶯も、いつのまにか來なくなつた。「ホホー・ホケキヨ」といふ其の「ケキヨ」がいやに甲高くなるのと、ちつとも調子が張れなくてのつぺらぽうになるのと、聲はやゝ低いけれども品よく落着いて律呂の整つたのと、この三羽がいつも連れだつて來て言ひあはせたやうに交る〲鳴いたものだ。しまひには內の子供までが其の一つ一つに聞きなじんで、姿は見えないが一家ぢう何となくほゝ笑ましい親しみを覺えて來た。別して例ののつぺらぽうの方は、馬鹿な子のよけいかはいゝやうな心持で、みんなからひゐきにされたものだ。

（倒　挂　子）



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

# 或る日のいのり

藤井悌



どうぞわたしの心から
『あはれみ』といふ
苦しい思ひを取り去つて下さいまし。

どうぞわたしを、すつきりと
追想も自省もない
氷のやうな人間にして下さいまし。

どうぞわたしの心から
誰れのためにもならぬ優しさと
人を損(そこな)ふばかりの情(なさけ)らしさを
きれいに取り去つて下さいまし。

わたしはとても堪へられません。
この『あはれみ』が顔を出すと
わたしは寂しさのどん底に
どこまでも、どこまでも
沈んで行かねばなりません。
そして言ひやうのない不安が
わたしの魂をかきむしります。

どうぞわたしの心から
思ひやりと人なつかしさを
斷ちきつてしまつて下さいまし。

どうぞどうぞわたしを
麻殼(をがら)のやうにかさ／＼した、
風のやうに無遠慮な、
やぶじらみのやうにづう／＼しい、
這ふ蟲のやうに冷たい、
さういふ人間になりきらして下さいまし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

# 西國行（第一信）

松下吉衛

藤井兄

天香師一行の八幡製鐵所に於ける托鉢講演の模樣、竝びに京都一燈園の近況、乃至一燈園生活に對する西國筋一體の反響を實地に見學させて貰ふことは、一燈園の組織化、宣光社の具體化が同人の間に問題になつてゐる今日、又、私共の「いのりのかたち」をきめさせて貰ふについても、可なりな意義があることと信ぜられますし、且は舊情を溫めたき先輩同人も五六あり旁、天香師お召しの眞意も恐らくは此に存することと思はれますので、私共の東京中心の運動開始の時期は、爲めに、幾分遲れもしませうが、押し切つて一行中に加へて頂くことに致しました。

四日朝、柄木を立たして貰うて、お宅へ上りましたのが、正午少し過ぎ頃、お宅を辭して中桐師の御供養を受け、混沌師にも一寸會はせて貰ひまして、東京驛から十時半の明石行夜汽車を取りました。

例のやうなわけで、今月は「光」を二回ださねばならないものですから、夜通しペンを走らせました。先月末、實業之日本社でなされた天香師御講演の筆記です。二時間餘りの大層油の乗つた良いお話でしたのでノートに採つて置いきましたのです。

五日午後一時すぎ京都着。驛前へ出ますと、山の色といひ人の歩みといひ、東京と何といふ對照でせう。「寂」の思想は、やはりこゝからでなくてはと直觀されもします。日曜といふに電車のゆるやかさ。切符を買ひましたら、區制だけは廢されて往復で十三錢とられました。東京とは正に金二錢也の差。二錢也々々々と考へてる中に丸太町烏丸に來て了ひました。そこで下車。直ちに衣ノ棚の杉本さんの離居を訪づれましたら、天香師は京都市社會課と協調會との催しである社會政策短期講習會に課外講演を依賴されて商業會議所に行つて居られるとのことで、同人の御案內を受けて其の方へ參つて見ました。

もう、師の御話が始まつて居ましたので私も聽講生に伍して聽かせて貰ひました。室も馬鹿廣くなく五六十の聽講生で粒揃ひでしたので、しつくりあつたお話がお出來でした。お話



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

がすんでから小河(滋)博士などに御紹介を受けたりました。
社會課の某氏は
「自分は佛典は殆んど知らないが、バイブルの方は聊か研究もしてゐる。あの山上の垂訓が、今の世にさうハツキリ實現し得てゐるとは、夢想だもしなかつた。」
と驚異の面色で、天香師に何かと質疑されてゐました。明日發程の用意もありますので、程なくお暇いたしました。

衣ノ棚に歸りますと、先刻は見えなかつた來訪客がもう四五人待つて居られました。天香師は一々來意を聽かれ、これはかう、あれはあゝと倦まず懇談を交はしてお返しになる。其の中に、又、新らしい方が後から後からと見えられる。一燈園や宣光社から使の方が走つて來られる。幾通となく書狀が配達される、電報をお打ちになる。それは隨分のお取り込みやうです。唐紙一重向ふの部屋には、此間、園に來られ早々急性リウマチを發された御婦人が臥床なさつて居るので、お醫者さんが來診される。歸られたかと思ふと、有名なマツサージャー平井先生が姿をお見せになる。看護の澁谷姉N嬢Y孃があちこちと周旋される。盲人某、僧侶某、朝鮮人某、學校長某、九州からの新聞記者某、子をつれた夫妻某、老幼、又男女。眞劒なギリ〳〵の話、戀人を棄て兼ねた少女の訴、托鉢先についての相談、歸國後の心得、講演、揮毫の依賴、――形容詞ではなく眞に維摩の方丈と呼びたい感じがいたしました。
「天香さんも、これではお體がたまらんでせう。」と云へば



「えゝ、昨夜も三時でした。一昨夜は前に約束してありましたし、是非、園に歸らして貰はうと、途中湯屋に寄つてから、出だしましたら腦貧血のやうに何だか頭がフラ〳〵して歩くに堪へませんでしたので、引き返しました。」
さうでせう。血氣盛りの者でも、これでは參つて了ひます。先夜も御宅で天香師と兄と私とで炬燵を圍んで御懇談の折、兄からも私からも申上げたと記憶して居りますが、かうなつては、どうでも、天香師の傍に事務局を設けることが急務だと思ひます。豫診から手術の準備から執刀からメスの後始末まで國手一人でなさつてゐらつしやるのでは、自然メスも鈍るといふもの、込み合つた折の手術成績など確かによいことばかりはあるまいと杞憂されてなりません。

夜分になつてから、何日か申上げた若い藝術家の森さんがお見えになりました。敬虔そのものといつたやうな態度には思はず合掌させられました。刷毛をもつて彩らずとも、人そのまゝが生きた藝術ではありませんか。「どうぞ永へにさうあつて」と心に禱りました。森さんは今日日曜を幸ひに理一郎さんを見舞はれての歸りなさうです。天香師や私共の歸園するのを途中までお送り下さいました。

熊野神社の前で電車を捨てゝ、まだ九時少しまはつたばかりですのに店をしめた家もそちこちにある、電燈の少ない街路から、段々郊外近く抜けて行きますと、底冷えする夜氣に幾晩か續いて寢不足の私は、襟を何度かかき合はせずには居

られませんでした。鹿ケ谷に入りますと、朧月が法然院の上にかゝつて居り、ほかしたやうな東山一體の懐かしみのある夜色が目に映りました。それまでいろ〳〵天香師と言葉を交はして參りましたのですが、私は思はず口をつぐんで暫らく佇まされました。先年一燈園に寄せて貰つて托鉢修行のお導きに預つて居た時分、よく夜な〳〵、師に供しては戻つたものですが、やはり、それは早春の季節と覺えて居ます。詩の世界を知らない私も、當時のことが追想されて、柄にもなくセンチメンタルな情味に涵らせられたのです。

兄よ、お笑ひ下さるな。當時二十六歳だつた私は、友の榮達を外に見て、家族の反對や親戚の喜ばないのを押し切つてほんとに命がけで、こゝへ走つて來たのですもの。思出がない筈はないでせう。

住友別莊の前へ來て驚きました。邸宅を圍んだ堂々たる石塀が、爪先あがりの切通しから見える分だけ、さゝやかな生垣に代へられて居るではありませんか。民衆憎惡の緩和策？中々、味をやりをるわいと微笑まれました。聞けば此の何十百人をいれられるべき邸宅に、僅か三四人しか住まれて居らず、毎夜必ず夜警を廻らすのださうです。有てる者は有てるながらに色々と氣苦勞が少なくないやうですね。之を七八ツの部屋しかない餘り美ばでもない建物に六七十人も起臥して居て雨戸は年中解放しの一燈園と對比するときはどうでせう。善惡高下は知りません、たゞ十萬億土を隔つる此岸彼岸の距離のあることだけは確かでせう。

園につきましたら、皆さんお待ちでした。

天香師は「光明壇」の前に坐されてやゝ暫らく懇禱の後、「光明の間」で一同に御挨拶されました。六十名にも餘る在園者。私は去年の正月に寄せて貰うたきりなので、知つた顏はほんの二三しか見えませんでた。やがて係の方が來訪者名簿を天香師の前に開けて、お留守中の模樣を色々報告になり、今日の一宿兩餐の客三人さんが次いで引き合はされました。一人々々來意の大概を述べると、師はそれ〴〵に御意見をおつしやり御指導なされる。長い間の御經驗とはいへ、適切圓熟の御取扱ぶりは眞に讃嘆の外ありません。思想上の閑討議でもありますなら、少しは脱線しても直接、人一生の命運を右から左へねぢるやうのことは、あまりありもしますまいが、一燈園へ持つて來られる問題は多く血の出るやうなギリ〳〵に詰つた實生活の活事實なので、一歩あやまたば、その人を奈落の底に陷らすといつた底のものですから、聽いて居りましてもハラ〳〵させられます。それを、師は、やさしい、けど「權威(ちから)ある者」の言葉でハツキリ切つて行かれるのです。

程なく當番の相さんが歸つて來られた。相さんは、日々、家政女學校に托鉢されて、教員兼事務員兼小使の御用を務めなさるのぢやさうな。それに當番といふ輕からぬ役目におあ

りなので、隨分お忙がしくもありお疲れもするらしい。天香師から皆さんに世上の出來事に關する說話やら一人々々の托鉢ぶりに就いての敎導やら明日發程の講演旅行の次第やらお話があつてから、一同に茶菓の饗應がありました。打ち寛いでの快談中、相さんが天香師に「在園者多くの希望が天香さんにもつと一燈園に居て下されるやうにとのことですから、叶ひますなら、さう御願ひ申します。」天香師も「來月位からは居られるやうになりませう」と御答へでした。

集りが終へたのは十一時。それから、皆さんが寢靜まつた後まで小一時間も相さんと私は話し合ひました。「懺悔の生活」が出てこつちの一燈園の賑ひ模樣、求道者の取扱方、在園者の補導、各地同人・共鳴者の聯絡のことなど種々意見を交換いたしました。實は具體案をもつと練らせて貰ひたかつたのですが、時間が許さんので、中途半で話を打切らねばならなかつたのは遺憾に堪へません。

六日朝の起床は四時少しすぎでした。天香師が立たれるのでいつもよりか一時間程早く拍子木を鳴らしたのださうです室の掃除をしまつてから外へ出てもまだ星が空一面に冴えて居て人の顏も見分けられぬ暗さでした。やがて禪堂に鈴が鳴りました。靜座看經の始まる合圖です。私の入つて行つた時には、兩側の一段高くなつてゐる五疊敷の所には殆ど空所がないまでに詰つてをり、以前は天香師のみが座られた中央十疊敷の板の間の兩側にも座所が設けられてあつて、混血兒のSさんだの朝鮮の某高官の息子さんだの見なれぬ顏がそつちこつちにあります。オールバックの頭髮見られゝば、いが栗頭もあり、圓頂黑衣の沙門も居る　いふ始末。眞に無相不二門の名にそむかないものがあります。般若心經、維摩經其他二三唱誦されてから、師の提唱がありました。あの靜かなしんみりとした中に、どこか犯しがたい底力の籠つた語調で淀みなく說かれる樣は、こゝならではと感じられました。提唱の內容は「上求菩提と下化衆生」とでも題すべきものでした。早春の黎明、山氣橫溢の間に浸り、讀經靜座に思ひ澄まされて、斯の提唱を聞く。宣光社の雜件で可なりゴテ〳〵して居る私は、久方ぶりに「心の洗滌」を經驗されました。中桐師の申される「濾過機關」の要ある所以もこゝだと存ぜられます。

提唱が終へてもまだ電氣をつけて置く暗さです。例の下座のシンボルのやうにしつらはれた半地下室の食堂で、園としては大御馳走の溫かいご飯に溫かい汁の御供養に預かつた時分には、在園者あらまし托鉢にお出掛けでした。食堂の黑板には托鉢先と托鉢者とが揭示されてあります。當番の相さんと其の前で何やら御相談なさつてゐる方も五六ゐられます。相さんと昨夜の話し殘りをもつと纏めたかつたのですが、汽車時間の都合もありますので、食後、挨拶もそこ〳〵に園を去らせて貰ひました。

七條驛では保太郎さん、鈴木さん、Y孃等の御見送りを受けました。京都宣光社を預つて居られる保太郎さん、[illegible]

勞の御模樣で天香師がこゝ一ト月もあけられるにつき、種々御協議をなさつてゞした。

私は鈴木さんの兄さんが、此度身を挺して御一家ぐるみ――乳呑兒までも背負はれたまゝ――入園された大勇猛心に敬意を拂はせられると共に、又一般的にもこの「家庭ぐるみの救濟」といふことが、可なり眞面目な道心を持つた人達の運命に決定的支配力を有する問題でもありますので、どうおかはり遊ばさるゝか、又ひとり身の在園者とどんな係はり合ひにならるゝものか、一切の爲めに、先驅者として榮ある御歩みぶりを祈らせて貰ふと同時に、その御樣子を綿密に又冷靜に御觀察下さるやう、私事と思はれませぬまゝに、驛頭混雜の中、失禮とは存じながら、呉れ〲も、鈴木さんに御願ひ申しました。

こんなこと話し合つて居りますと、私のひつぱりの色の褪せ具合にものゝあはれでも感ぜられてか、天香師は鈴木さんの纏つて居られた少しは優つた色のと取替へてはとのことでした。鈴木さんが笑つて脱がれる、私も微笑せずには居られませんでした。栃木を立つ時、妻があんまりですから新調しませうとの親切を強いて斷つたもの、東京では奥樣によつて「古色蒼然」の形容詞を辱うした逸品ですが、思ひ切つて手放して了ひました、呵々。

七時五十分の下りを取らして貰ひました。一行は天香師の外、曹洞宗某寺住職甲斐氏經濟學士辻氏、九州の原氏〇〇氏東京のW姉N孃及び私の八名です。別に七名の同人は八幡製鐵所に向つて既に四日、先發されたのださうです。

大阪からは私にとつて初めての旅です。明石附近など案外の眺めには、さすがに目に新たものがありましたが、そんな呑氣は言つてをられず、「光」三月號の原稿を今日中にはどうでも纏めねばならないので、私は萬年筆を走らせねばなりません。

姬路で汽車を棄てたのは正午ちかい頃でした。山崎町から修養團宍粟郡支部の幹事長安井氏が迎へに見えてました。それから自働車を七里ほど驅つたのです。車中、安井氏が語られるには

「社會の狀態から見て、青年教化のことが最も大切だと考へられましたので、先年私は率先して修養團郡支部を設置いたしました。今では隨分シツカリした若者も出て參りまして、中には飲酒やら賭博やら流行つて何とも手の着けやうのなかつた村が、大工を職とする唯一人の十八歲になる青年の獻身的努力で改善された著しい例もあります。だが、私は此頃、自分自身の經驗からも、他の幹部の人達の樣子を見ても、一種の行き詰りを感じます。それはかういふ次第です、獨身のうちは家族に對する責任が輕いのでやらうと思へばいくらでも修養團の爲めに盡せましたが、妻を迎へ子が出來たとなると、家業の方の責任も加つて來て居て、家族への奉仕ばかりでも中々なみ大抵ではなく、從つて社



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

會への奉仕は思ひながら年一年としにくゝなつて來ます。これはかうしたもんだと、あきらめては居ますものゝ、何だか心の奥底に言ひやうのない物足りなさを感じてゐることは打ち消すわけにいきません。此の問題を妥協的でなく解決するについて是非お教を請ひたいと考へまして西田先生を御招待したのです。」

私は氏のかうした求道の眞劍さに思はず襟を正されました。

自働車は、田舍にしては割に整つた道を、山に入り流れに沿ひ、早春の野趣溢るゝ如き眺望を展開させつゝ、ひた走つて、ぐるりが山に圍まれた、どこか京都に似通つた所のある小邑山崎町についたのは午後二時前後でした。小學校長其他修養團宍粟郡支部の幹部諸君に案内され、天香師が成る可く質素な取扱をと云ふので、安井氏の宅に招ぜられました。校長さんは修養團のシンボルとも云ふべき御人柄で、當地が薪炭をはじめ特産物多く、車力の如きも一日拾圓の手間を取る者さへある位なので、こんな邊鄙な土地でも藝者が五十から居て毎夜殆んど賣り切れといふ盛況商取引は凡て酒席でなされる習はしであることなど語られました。これは恒産があつても恒心がない著しい例證とも聞こえるのでか、T氏は先刻車中での私との對話の續きをしかけられました。

「だから分配を公平にして貧困を根絶やしにしても、社會は別に善くならうとは想像されません。懺悔奉仕の精神を生かしきる外ないと思ひます。」

「懺悔奉仕の精神を生かしきることの、個人々々の救濟は云はずもあれ、社會の制度や組織の改革に、睛を點ずるとでも云ひたい力あることを信ずる點に於ては、先程も申上げた通りあなたと意見がピツタリ合ひますが、これは今のことゝは問題が別でないでせうか。組織改革後の社會では、營利の爲めの生産も交換も制度として許されませんでせうから、勞働力の賣買や、又一般に商取引もなくなりませうし、從つて賣女の存在も想像されません。私産と營利とを認める此のまゝの組織の中での山崎町の事例は、此說を覆す何物の値打もなからうと思はれますが如何でせう。」と私はお答へいたしました。

講演會は夜七時からです。

入浴が好きで毎晩缺かさぬ習はしになつてゐる私は、昨晩とうど浴びさせて貰ふ暇がなかつたので今日は體が他人のやうな氣持がして居るものですから、すゝめられるまゝに一人さきにはいらして貰ひました。ところが少々ぬる加減でして出られなかつたものですから「一足さきに會場へ參つて居ります。」と師に聲かけられ、すつかり恐縮して了ひました。私の入浴好きは貧血性の體質から來てゐるのです。聖戰參加の身はもつと定力を錬つて、人工的に血液循環を促す要のないやうに準備せねばなるまいと感じました。後れ馳せながら丘の中腹にある、今晩の會場の公會堂に參りましたら、幸ひま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

られました。修養團と家庭會兩方が主催の會なので、數百の聽衆は、青年あり處女あり主婦あり老者あり敎育家あり商人ありといふ有樣。演題は「新らしき生活」といふのでしたが引例恰當にして、聽衆全部に亘つてよく滿足を與へ得たと信ぜられます。

當夜は、中堅青年一夜講習會を兼ねてゐましたので、是非一行中のもの誰かに居殘つて話をしたり宿つたりしてほしいのと御求めだつたので、Kさん、Tさん私の三人が選に當り、中堅青年二三十名の方を前に何か私が演じなければならぬハメに立ち至りました。題目を定めて述べるより、御尋ねに應じて存じる限りをお答する方無難でもあり幾分御役にも立たんかと思ひ、何にも解つてないのに大膽すぎることでしたがかうした御挨拶を申上げました。すると、すぐ問者が現はれでした。

「一燈園在園者の日常生活を詳細にお聞かせ下さい。」

これは、ありのまゝに述べればよいのですから、なから無難に答へられました。

次は宣光社（財物事業世務のお光りによる扱ひ方）についての質問でした。たしか校長さんからだつたと覺えてゐます。これは同人の間にも研究が未だ完全には具體化して居りませんので、第一宣光社第二宣光社第三宣光社の類別やら、「侵さず侵されず」の原則やら、抽象的概念的に説明する外ありませんでしたが、更に次のやうなことを附言いたしました。

「宣光社は實は雜中の雜、俗諦に卽して俗諦を成就せん願に立てるもの。禁酒の戒相を一燈園とすれば、宣光社は正に節酒の工夫に喩へつべく、一歩誤らば墮地獄の危さがあります。同人も幾人か現に宣光社の試營に從事してをり、私などもそのはしくれでありますが、體驗の結果は特に經濟的政治的宣光社の運營難を示してをり、宣光社と一燈園とを同一人が扱ふ場合その度合は一層甚だしかるべく、敎育方面乃至社會事業などが一番やり易い類のやうです。」

第三番目は、可なり「生活」といふことを考へてゐられる敎師らしい方の發問で、私には痛すぎる「棄恩入無爲と道德蹂躪」との問題でした。不信な私は、かうお答へする外ありませんでした。

「私は自分自身そこまで行き切つてゐるとは、口はばつたくてとても申された次第ではありませんのですが、一切の爲めに立つといふ願さへハツキリしてゐるなら、普通には許され難い恩愛の契りを斷つことも咎むべきでないと思ひます。然し此は各自の內觀自省に訴へる外、可否を決する方法のないことですが、若し一點でもそこに「我がまゝ」が潛み妻子とか老親とか手足纒ひをなくしたいなど云ふ考への痕跡さへありましても實に大それた話であつて、道德は爾く容易に蹂躪される程、權威のないものではありますまい。道に立つ自分の心が如何しても家族に解つて貰はれない時、不德の罪を詫びに詫び切つて、涙にくれる思ひして



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の棄思と滅親であつて初めて許されるにちかいと申すべく、こゝを澄み切らせばこそ眞實の報恩者乃至大義の敢行者とほめたゝへられるに至るのでありませう。」

第四問も宗乘だの經典だの、さつぱり調べてない私には決して容易いことではありませんでした。

「悪人でも救はれるのでなければ彌陀の力は絶對と謂はれますまい。それとも煩惱具足の身このまゝで救はれるといふ安心は間違ひでせうか。一燈園ではこの問題をどう取扱つてゐます。」

「このまゝでよいと淡くあきらめて放縱な生活をする者に佛さまが拜まれやうとは想像しにくいです。如何に勵めばとて、とても成道おぼつかないと、彌陀にすがられた古聖の心は、もう煎じつめ行き切つた極限で、「あきらめ」とか「放縱」とかいふだれ氣味は痕跡だに認められない筈と考へられます。眞宗流の安心とて、念佛を唱へながらなら（此の場合の唱名とはたゞ形式的の意味）泥棒してゝも浮ばれるといふのでありますまいが、どうでせう。私自身ですか。救はれてゐますのやら、さうでないのやら、わからないのですが、たゞかうして居ることに落着きは感じてゐます。」

もつと御尋ねなさりたい人があつたやうでしたが、十二時近くなりましたので、切り上げにいたしました。それから三十分間の國民體操。初めは、私、傍觀して居ましたが、若い方の半裸の體からたぎり上がる精氣に打たれギツとして居るに堪へきれず、とう／＼中途から着物を脱いで「地球を押せ」「太平洋を乘つ切れ」の運動に參加いたしました。やはりやらんと味がわからないやうです。十二時半就床。



いま海は影りぬ——影は
すべりゆく、
波しろじろと
光のびゆく。

ふるさとをふと思ふとき
限りなき波のうねうね
わが胸にあり。

砂濱の
たゞひとすぢの白き線
うすら光りて暮るゝふるさと。

死期ちかし——
ふとかく思ひ、
ふるさとの波のひゞきを
聽きに歸りぬ。

倒挂子

# 一燈園だより

一燈園の二階の窓から見ますと、お隣の尼宮さんの居られる靈鑑寺のお庭の紅梅が今眞つ盛りです。その門越しには白梅も咲き匂つて居ります。園の女部屋の東には椿がさゝやかながら眞紅な花を開き初めて、その側には青々とした葉隱れに地味な花をつけた枇杷の木が淺い春の陽に微笑んでをります。二階の正面の柿の古木も、櫻の若木も未だ素裸ですが、前の叢にも向うの吉田山にも、背に負うた東山にも生々と萠え出づる春の氣が感じられます。

天香さんは二月の八日から伊勢路を廻つて彦根、岡崎、島田を經て十七日に東京へ入りました。托鉢者としては金川さん、谷野さん、三增さん、加來さん、佐野さん、鈴木さんが御供しました。

東京では帝大佛教青年會と、中野の東京市療養所と、實業之日本社とで講演がありまして、二十六日の朝天香さんと金川さん、湯淺さん、八田昇一さん、鈴木さん、渡邊破竹さん大塚さん、山口つた子さん、鈴木ちか子さんの九人連れで托鉢をしながら靜岡、岐阜を經て天香さんの郷里琵琶湖畔の長濱町へ寄りまして、三月一日無事歸園致しました。

東京の同人は東京市療養所、成蹊學園、櫻楓會托兒所を中心として當番の八田さんを初め谷野さん、古川さん、植松さん、丹羽さんが深く祈りを籠めて居て下さいます。

岐阜では海野さんや龍燈園の杉浦さん、原田さんを初め大勢の方が一方ならぬ御骨折をして下さいました。京都では益々來訪の方、入園希望の方が增えて來ますので、當番の相さん、金川さんは悠々と忙しがつて居ります。多い時は一燈園に六十人も泊ることがあります、二枚かけて居た蒲團を一枚にせねば足りぬ時は、今まで一疊に一人の割で寢て居たのが三人も寢る樣になつて、さして寒さも感ぜずに濟みました。人の溫味の有り難さを泌み泌み感じさせて頂きました。

勝淳さんは相變らず衣棚の杉本さんに托鉢されて居られます。お民さんは昨年の暮に赤ちやんを設けられて、園ちやん花ちやん二人のお母さんになられました。澁谷ふさ尾さん、本田雛子さん、今村德子さんも相變らず婦人方の先達として御骨折り下さつて居ります。保光さん、小暮さんは宣光社の事務に專心されて居ります。透石さんの御病氣も次第に快方に向つて來ました事は一同の喜びで御座ゐます。一月八日に一燈園から西國三十三箇所巡禮に出られました中村無外さんも、今は第三十番の竹生島に詣でられたとの御便りがありました。極寒の御修行さぞ御苦勞のことゝ、その前途の恙無からむことを祈つて、園では毎夜御詠歌を皆で誦して居ります。

是非にと乞はれて御家に托鉢に行かれました福岡さん、立山さんも今は園に歸つて一層精進されて居ります。眼の見え



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ない住田さん、耳の聞えない吉川さんも眞劍な托鉢を續けて居られます。小林さんも岩淵さん御夫婦の後を繼いで、並が岡の麓にある奥村さんの花中園の庭守をしながら、心靜かに觀音菩薩の像を禱書して居られます。

三月六日より天香さんは又九州、山陰地方の旅に上られました。晝夜間斷無き奉仕に忙しんで居て下さる師の上に光の御惠の益々豐に垂れ給はむことを祈つて止みませぬ。

筧の水が凍つて御雑巾がけも出來ぬ様な日が續いた鹿ヶ谷にも春が訪れて來ました。行乞の生活をして暖い日に包まれた時、心の底から人と生れたことの有り難さが湧き上つて來ます。浮き上らうとする心を深く深く堀り下げる時、春の泉は清く清く流れ出づるでせう。靈鑑寺の庭の梅の様に、人が見ようと、見まいと、賞めようと、誹らうと、そんなことには頓着なく、大きな自然の力に育まれて、咲かねばならぬ内からの力を、強く強く強く強く、祈らして、祈らして、頂きませう。

（大正十一年三月上旬）

京都鹿ヶ谷にて　S生

# 返照録

●矢野きた姉（神奈川縣川崎町鋼管病院）

（前略）あれから歸りまして院長に色々御話申上げ、兎に角、今少し心を落ちつけ祈らせてもらふべく、二三日のおひまを頂いて、昨日は井の頭の公園に參りました。

あの靜かな森の中で、心ゆくまで祈りました。そして其祈りの最中に、是非、先生に御話しないでは居られない程の不思議な事に出逢ひました。（それは普通なんでもない事だと申してしまへばなんでもない事では御座いませうが、昨日の私には、殆んど祈りの中に生きて居た私にはどうしても默つて居られない程の出來事なので御座います）。それはかうなのでございます。約二時間許り森の中で祈りまして、最早や私の頭の中には何んにもなく、たゞ自分は今、神様とたゞ二人きりで歩んで居るのだと云ふ事のみが意識されて、言ひ知れぬ歡喜に充たされつゝ池のほとりまで歩んで參りました。そしてそこにあるベンチに腰を下して暖かい陽の光を浴びながらうッとりと池の面を眺めてをりましたら、どこからともなく一疋のトンボが飛んで參りまして私の裾にとまりました。三分、五分、十分、とたちましても一向にげて行く様子がございませんので、何んだか變なトンボだなと思ふと同時に、例のアシジの聖フランシスの事を思ひ出でまして、彼れが小鳥に説教をした様に私もトンボと共に神様を讃美して見ようと云ふ氣になりまして、私の手にとまらせるべく右の示指を差しだして、さア之におとまりと申しましたら其言葉が分つたのか止まりました。そして私の口の前まで持つて參りまして、神様のみ惠みの有難きこと、そして此ありがた

い事をおまへ達の仲間にも知らせて共に讃美しなくてはならない事を云ひきかせまして、だん／＼指を口のはたまで持つて參りましたら、此ん度は私の鼻の上に止まりました。暫くする内、餘りくすぐつたいので、又指を出し、之に止まる樣申しましたら、又指に止まりました。で此度は、いよ／＼ふたりは別れるのだから、共に御祈りをしようと申し、それにはおまへの脊の翅を一つにお合はせなさいと申しましたら、その通りにしました。そして私も目をつむつて祈りました。祈りが終ると同時に眼を開きますと、彼も羽を開いて居りました。さアもうい〻からおまへも御出でと申しましたらガサ／＼と音をたてながら、何處へともなく飛び去りました。

先生！。その時の私の心持ちは何んと申上げてい〻やら、とても口にも筆にも申上ぐる事は出來ません……いかに人間の罪深き事。凡てのものを捨て去り大自然に歸る時、眞赤裸で神のふところにかへる時、いかなるものとも和する事が出來、兄弟となる事の出來るといふ事を、今更の如くに感じました。只々感謝あるのみでございます(下略)(中桐氏宛)

●服部綾足兄(岐阜縣高須町二四) (上略)さて小生かのお光の御働きにや貴著「懺悔の生活」を拜讀し、並に再應味讀を了へ申候。安價な煩悶ぞと御笑ひになるかは存じ申さず候へども、小生は年來家庭の平和と物質上の事とに就き尠からず苦惱罷在候事とて、御著述の各篇の吾が生活に觸れたるふし／＼に至る毎に多大の感激に泣き申候『他に障りなき生涯』に住し「許されて活き」たく發心致候。さり乍ら家族を棄て去るといふ點に於てはまだ斷行の第一歩にだも思ひ到らず、何とか工夫を致し度存候。これ行きづまつたと思ひつ〻ホントウには行きづまらぬものかとも存候。貴著を通じてお光に觸れつ〻、間違つた考へひがんだ心を直して戴き、その有難味により家庭を隣人と共にお光に觸れさせてもらひ度と存じ、貴著を修養の教科書と致すべく候。(下略)(天香氏宛)

●澁谷朝野姉　久しく御無沙汰致しまして平におゆるし下さいませ只今は御くやう物の御わけとてたくさんにちやうだい致しましておそれ入る次第でございますついてはふさを事いつも御せわさまにてありがたくふかく御禮申上ます。

何事も御よろしく。私は大安心してをりますどうぞ／＼はゞかりながら奥様へもよろしく御禮申して下さいませ。寒さのじせつがら御二人りとも御身體御大切にお祈り申上ます。

ありがたき御くやう物をいたゞきてよけて
おかれずつかはれもせず

一燈の光は日々にてらしつ〻くらき心のや
みぞはれなん

ながらへて一燈園のわか草の花のさかりを
見るぞたのしき　(天香氏宛)

●齋藤きい姉(長野高等女學校寄宿舍)
先生御ぶさたいたしました。御許し下さいませ。

十日間先生のお側に置いて頂けました事を深く／＼御禮申上げます。謙つた柔いだ園の人達の中で働かして戴きました私は、今まで味はうた事のない眞の平和の境地を味はせて頂きました。

沒我下座の謙虚な心、如何なる人をも差別せぬ、また初對面から柔ぎ合へる敬虔な心、一粒の米をも粗末にせぬ感恩の心、與へらる〻ものを以て不足をしらぬ滿々ちた心、等尊い姿を見せて頂きますとともに私の心の中から取り去らればならぬ汚點の數々を氣付かせて頂きました。

いままで考へたり見たり、願うたりしてをりました平和の生活は欲と迷の滿々ちてをつ



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

たもので御座いました。

先生から親しく數々の御話しを承る事が出來まして、光によりて歩む世界をだん／＼はつきりさせて頂けました事を有りがたく存じてをります。御いとま致しました翌八日の朝六時に長野に行きました。寄宿舎の家主が眼さめられぬので舎に入る事が出來ませんでしたのを幸に　宵に降りました雪を二三軒掃かせていたゞきました。當日は學校の當直でありましたので登校して生徒職員、幼稚園の便所を掃除させていたゞきました。

晝頃松本つるさん外卒業生など見えまして、一處によろこびの中に掃除も終りました。松本さん達のいはるゝに、生徒の時便所の掃除は逃げまはつたものだのに、今日の心持はふしぎだなど申されてゐました。

其後續きまして毎朝僅か許りではありますが御近所の御用をさせて頂いてをります。學校では放課後小使さんの御用を少しばかりさせていたゞいて居ります。

永い間間違つた道を得々として歩いて參りました罪の懺悔、佛様への御禮としての托鉢、奉仕であると思へば、いまゝで耻とし賤しむべきものとしつらいと思うた仕事も勞働も今は苦もなくやつてのけられる様に思はれます。仕事をしながら感謝の涙懺悔の涙にくれることもあります。

九月始めて先生にお目にかゝり、「心も體も生活も光にお返しなさい」と申されました時尊い御言葉と感じましたが、まだ私には光といふものがはつきりいたしませんでした。

其頃は自分の一切は光から頂いたものだ、それであるのに心も體も生活も皆自己の名利の爲めに利慾のために、都合のよい口實を設け、また立派な道徳の名の下にかくれて、長い間氣隨氣まゝに使用して來ました事のあさましさはづかしさ勿體なさ、清澤滿之先生が「佛様の仕事、物、をぬすみしてをる」といはれた御言葉はいまは私の身の上の事と如實に感ぜられひし／＼と身にこたへます。一切をなげだして出來る丈お役にたゝせて頂きたいと手を合せる心にさせていたゞきました。

昨日も托鉢をさせて頂きながらいままでいそがしい／＼というてをつた仕事の外に多くの仕事をさせて頂きながら、さまでの疲れも覺えず、覺えてもすぐ癒され、睡眠も前より少くともさして苦しいとも思はぬ。自分のものといふ立場と光のものといふ立場とかくも異るものかと驚かれます。しかし一日のうちに起る心の跡、刹那々々の感情を省みますとき、内觀しますとき、いつも敗北の姿の弱い自分が見出されて淋しく御座います。この時祈らないでは居られませぬ。おすがりする外ありませぬ。我を捨てようとしていよ／＼つのり、捨てたと思うた我は他の形をして現はれ來ります。謙虚な心でと願うて居りながらいつしか傲慢の態度でをります。

恐ろしい勢を持てをる習慣の力と抗し難い環境の力とに出來る丈戰うて、より深く自分を内觀して奉仕的生活を續けたいと祈てをります。

どうぞ先生私のために、挫け易い私のために折々鞭うつて頂きたう御座います。

寒に入りましてより隨分堪へがたい寒さが續きます。どうぞ御からだ御大切に遊ばして下さいませ。

私といふものを少しも知られぬ土地で心も身も低うして働かせて頂く日の一日も早かれと祈りて居ります。（天香氏宛）

●江口文代姉（東京深川海邊町六五）　先生有難う御座います。私の今迄の生活はあたり前の様で全然間違つてゐた事に氣がつきました。

自分で働いて得たものは自分のものだといふ感じを恥かしく存じます。

病の爲に働きもなくぶら〳〵遊んでゐる兄を、一番愛してゐる母さへ、私の爲にうとみ出す事が、非常に苦しくてなりません。「氣ちがひも獨りで狂はない」との御言葉を實にもつともだと存じます。そして、一家の氣まづさも、兄の病すら、私が原因ではないかと思はざるを得ません。

幾度か御手紙差上げようと致しましても、信實心から純になり切れない自分の心を見やつて今まで躊躇致して居りました。

今こそは今日こそは無に歸つて、死んで仕舞はねばならないと覺悟しながら、その度毎に敗けてゐる弱い自分を、どうしていゝかわかりません。

何卒、ぶしつけな御願ひですけれど、溺れんとする者に一本の藁を與へて下さい。

外面の華かな世界が、盲目になつた自分の魂を引きつけようと致しますけれど、私の求むべき生活が決してその中にはない事を、餘りに明白に知りました。どうかして私も皆樣の跡を踏まして戴きたいと存じます。唯一言入園の御許しを戴きましたなら、どんなに嬉しい事かと存じます。缺陷だらけな人間で反つて園の御邪魔になりはしないかと思ふと、かうした御手紙も差上げられませんけれど、獨りで今の周圍の中に死んで生きる事は私にはあまりに難い事で御座います。

若しも入園の出來ない事でも御座いますなら、どうぞ、生きんとして苦しんでゐる弱き者の爲に御祈り下さい。

厚かましう御座いますけれど尊い時間を御さき下さいまして御返事下さいます樣御願ひ致します。(天香氏宛)

●平岡とみ姉(東京)　此度は突然御訪れ申上げ御配慮を煩はし難有拜謝いたします。御人格を慕ふ多くの人のいろ〳〵の申越に一々光の御名によつて解決を御與へになります先生を、自分も亦その多くの中の一人でありながらズッと以前より、――たとへば前の世から自分の師であつたやうな心地がいたします。正直に申上げまして失禮の段御海容下さいませ。

さて、私の宿題――一家の生計一子の教育と光の生活とを兩立させたき願ひ、つまり家庭の聖化について、宜光社の態度であれとの御教示、それは自分年來の考へを敬仰する先生によつて裏書せられたものでございます。いまだ品切れの爲めに光二號は拜見いたしませんが、讀む文字の如くでありますならば宜光社の意味は略察せられます。此の後一筋に宜光の人となつて、つとめます考へでございます。

然しながら普通の人から當然の事として見過ごさるゝ學資の問題も先生には轉機でございましたさうな。實は私も現在は近所の方達から少しは羨まるゝ家庭をもつて居りますけれども、尙一層の向上、一家をあげて神樣に――光に奉仕する家としたき願ひの心痛でございます。斯樣な譯で問題が切迫したものでありませぬ爲め、ともすれば無事になれて、日を空に過ごしてまゐります。これではならぬと思ひます。目前の幸福に安心して、かくて私は何するものであらう。第一留守がちの爲め一人子の躾も存分にできず、たゞ生活の保證の爲め機械のやうになつてこれでよいものかしらんと染み〴〵考へます。にもかゝはらず私の表面の小さい働きについて周圍の人が賞めて吳れます時、私は口で謝し乍ら心に誰れからも補つて貰へぬ寂しさを感じます。思へば表面の働き、生活の資をうる爲めの働きは第二義のもので、すべてが本然への奉仕であらねばならぬと考へます。そして私は先生の徹底した、御生活を尊いことゝ存じます。それならば己れも亦と眞劍に考へてみましたが、名利は私[illegible]とつて捨て易いものでし



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

た、貧に歸り愚に歸りきることも自分に難くはないと思ひますが、どうも骨肉の愛惜は迚も捨てられさうもありませぬ。從うてお恥かしい次第でございますが鮮明な改革もできないのでございます。仕方がございませぬから仰せの通り宣光社の態度をできるだけつとめまして、それでも眞の落ちつきが見いだされませんなら其の時また天香先生の處へ御相談にあがる、と斯樣に考へて居ります。

次に此の度一燈園生活を拜見いたしまして大さう得るところがございました、これも亦先生へ(先生は光へと仰せになりませうが)厚く感謝いたします。妙なものでござまして、日常あまりに利にのみ焦る連中の中に暮して居りますと却つて反對に物質慾に淡くなつてまゐります。あまりに世才にたけた人達の中に居りますので、却つて眞にのみあこがれて、時には常識の埒外に出るやうになります。然し激しい兜町の生活は知らず知らずの間に私を隨分自負心の强いものにしました。これはいけないと心づきましたが、習慣はなか／＼改まらず、店にありましても、私は謙遜な人ではありませんでした。處が、一日の托鉢は私をかくまで圓滿にして與れました。下座奉仕の氣安さ、それはやつてみればわからぬと先生は仰せになりましたが、私はなるほどと思ひます。私は毎日自分の心に許されて居ります、ありがたう存じます。

歸京後私は毎日考へます、そしてつまりは先生程の體驗と、先生程の良心の鋭さをもたずして、先生の如く動じぬ人となりたいと願ふ横着なことに心づきました。先生が御負ひになつた十字架を私も亦避けますまい、進んで十字架を負うてみませう、どうぞ此の後共に御導き下さいますやう御願ひ申上げます。

過日、三月頃は東京へゆくと仰せになりました御言葉が樂しいものとなつて私の心に消えませぬ。御上京の節は拜姿が叶ひませうや御宿所さへ御聞かせ下さいますならこれに越した喜びはございませぬ。是非一寸でも御訪ね申上げたうございます。

とりいそぎましてペン書きで失禮いたします御海容を願ひます、お寒さの折から、何卒世の爲め人の爲め御自愛下さいませ　。(天香氏宛)

●●●●●

●西村次郎兄　　毎日冬らしい風が吹いてをります。今年もおしつまつて來ました。

先生始め奥樣もお變りはムいませんか。園の同人の方もおたつしやでをられますか。

先生をお迎へした日の事等思ひ出せば今でも本當に夢のやうに感ぜられます。河本先生のお宅に於ての一夜は私等にとつて殊に忘れ得ぬ印象です。

先生喜んで下さい、私が基督教の門を訪れて約一年半、到頭私にも許される日が來ました。來る廿五日のクリスマスの日愈洗禮を受ける事になりました。

此の日を如何に待つた事でせう。先生にお目にかゝる事が出來なかつたらば未だ／＼此の喜びは來なかつたに違ひないと思ひます。誠にお禮を申上ます。先生は忘れられぬ感動と或る大きな／＼力とを與へて下さいました。

先生にお逢ひしてよりの自分の生活を以前のそれに比べると眞に別世界のやうに見えます。先生は私の弱い信仰の畑に新しい油を注いで下さいました。私は力を得ました、今こそ信仰を掴み得たと思ひました。私はもう洗禮を受けずにはをられなかつたのです。牧師は私の爲めに此の記念すべき聖誕祭の日を選下んでさいました。今こそ私の生活の前途に光を認めました。幸福そのものと言つた惠まれた生活を生きて居ります。許されて生きて居る。惠まれて生きて居ると言ふ感を殊更深くします。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

先生にお目にかゝつてよりは、日常の仕事をなすにも、充分に張り切つた心持ちと歡喜とを以てなす事が出來るやうになりました。私はもう今迄のやうな人生を疑ひ人を疑ふ樣な態度を止めにします。自分の住む社會も今迄のやうな醜い所とは思へません。僅かに人を憎むやうな事が出來なくなります。

先生、私はどこ迄も托鉢さして貰つて居ると言ふ心で生きて行きます。自分の生活に一燈園を見出して行くやうに心掛けます。

現代の基督教には僅かに一燈園に見らるゝやうな實行的精神が失はれて居ります。

先生今夜父と一緒に風呂に行きました。私は父や母と共に道を歩くのは殆んど稀です。老いたる親を助けつゝ道を歩くなんて事は良い事に違ひないのは知つて居るのですが、それが又妙に恥かしいやうな晴れがましいやうな、人に笑はれでもするやうな氣分がして何時も何とか口實を設けて一緒に歩くのを拒んだのでした。そのくせ後では非常に後悔して居るのですが。母などは一緒に出る時は非常に樂しそうに、又、大きな息子を連れて歩くのが誇らしそうでした。それに今夜は父と風呂に行きました。そして眞に久しぶりに、殆んど十數年振りで老いたる父の背を流しました。父の顔は幸福に輝いて居りました。そして、私の背をも流してやろと言つて聞きませんでした。自分は父に背を流して貰つて居て勿體なく心から不孝を詫びて涙を流しました私は確かに變る事が出來たと信じます。

此の點でも先生に心から御禮を申したいのであります。

あの八日の日の清水谷女學校での半日は一生涯忘れる事が出來ません。あの日の清い汗を通して尊とい神の啓示はあつたのでした。當日戴きました御筆蹟には此の不完全な字や言葉では御禮申し上げられません。今も尙泣きたい程嬉しうムいます。もうつい表装が出來て來ます。一生拜んで行きます。

末筆ながら先生何卒御身御自愛專一になさるべくお祈り申します。奥樣にも皆さまにもよろしくお傳へ下さいませ。(天香氏宛)

●近藤政寛兄(長野縣伊那郡山本村) 在園の日はお光につゝまれた皆樣の遲い御心持で托鉢の體驗をさせて頂いた、こんな嬉しい心持はありませんでした。御禮を云はせて頂きます。

歸途大垣、土岐津其他數ヶ所で托鉢させて戴いて、道すがらお光まかせの生活を味ひました。その折々園で御世話樣になつた皆樣の爲に祈らずには居れませんでした。

これから私は二三日宅と神社の仕事を整理して直に十字街頭に立つ事になりますでせう。そして數日の後にはさゝやかな一燈園が飯田の町の山の手に出來ることを私と共に祈つて下さい。

先生には六月頃來て下さることに御願ひいたしました。今回長男政臣を入園させて戴くことに御許しを得ましたから只今出立させます。ほんとうの小供ですから皆樣の御指導を御願ひいたします。托鉢も樣子の知れる迄は是非御一所に御連れ下さつて教へてやつて戴きたいと思ひます。

終りに人類の爲に皆樣の尊い潔い奉仕生活を續けて戴きたいと禱ります。

私の方から云ひますと天照皇太神もゆきつまつた生涯から天の岩戸にこもられ、素盞男命は托鉢に懺悔の旅に新羅曾尸茂利(今の長春)までも出かけられました。是は今から私が考へた丈のことで間違つて居るかも知れませぬが、今の私はさう考へたいと思ひます。

こんな事を思ひ乍ら十字街頭に奉仕生活をいたさうと思ふ小さい田舎の神職の爲に祈つ



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ていたゞき度う御座います。拍手再拜

二伸

京に來て嵯峨に買うたる小扇に
　のせてまゐらす兒のふみ
蔓ひけば紅き瓜などつきて來ぬ
　古郷に似し野の宮の冬
京はもの丶繪になりやすき
　北山に若き人々道を修する

御笑評被下度候

（同人御中）



大正十一年四月十五日印刷（代金二十錢）
大正十一年四月十五日發行（郵送料不要）
東京市牛込區原町三丁目五十三番地
編輯兼發行者　中桐確太郎
東京市神田區仲猿樂町十七番地
中外印刷株式會社代表者
印刷者　渡邊市太郎
東京市牛込區原町三丁目五十三番地
發行所　東京宜光社

# 編輯者より

○本號表紙の題字は、綱島梁川氏が其の見神の實驗を報告せられたる書翰中より戴きました。

謹告

事務整理の都合上、本雜誌の發送及び代金の收受等に關することは、一切左記にて取扱ふことに致しました。隨て是まで東京宜光社にて御預り申してをりましたものは皆、移渡しましたから、さやう御諒承下さいまし。

京都市柳馬場三條下ル　宜光社
（振替口座大阪五九八三九番）

但し雜誌編輯の事は尚ほ暫く從來の通りに致して置きますから、編輯に關する御用はやはり

東京牛込原町三の五三
東京宜光社

に宛てゝ御申越し下さいますやう御願ひいたします。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

# 圖書目錄

申込次第無代進呈

東京市神田區表神保町一〇

## 春秋社

電話神田二一三八
振替東京二四八六一

ブランデス著 宮原晃一郎譯

第拾七篇

# 黎明期の思想家

四六版 四百二十頁・新刊出來
定價貳圓五拾錢 送料拾四錢

●目次―アンデルゼン論、ルナン論、劇作家としてのルナン、ツルゲエネフ論、イブセン論、同補遺

ブランデスは現存せる世界最大の文明批評家で、その功積はトルストイやイブセンの遺業にも劣らないと言はれてゐる。本書の譯出は現下不振の吾が文藝批評壇に何等かの活影響を與へずには措くまい。

泰西名著選譯

## 杜翁記念文庫

全百五十卷ノ內

(一)論文集 ショウペンハウエル著
(二)ハムレットとドンキホーテ ツウルゲエネフ著
(三)耶蘇の生涯 ルナン著
(四)大自然と靈魂との對話 レオパルヂ著
(五)人生の哲學 ウヰリアム・ゼームス著
(六)靈魂帶 ストリンドベルヒ著
(七)人生と草花 マーテルリンク著
(八)信仰と未來 マッジニ著
(九)十一月の夜 ホイットマン著
(一〇)自然人の冥想 トロウ著
(一一)隨感錄 パスカル著
(一二)トルストの生涯 ロマン・ローラン著
(一三)ルネサンス ウオルタアペエタア著
(一四)ヘレニズムとヘブライズム マシウアーノルド著
(一五)ピーターとアレキシス メレヂコフスキ著
(一六)ラオコーン レッシング著

定價一卷より四十卷迄一冊貳圓六十錢
十五卷以下一冊貳圓五拾錢送料拾四錢
三卷より四十卷迄並製あり一冊貳圓


Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

# 新學藝講座

## 會員募集

本講座は一種の university-extention work である。元々、所謂知識階級の心的教養を昇上させ、豐富にしやうとの目的で發行するのであるから、從來の大學講義錄の如く專門に偏したものではない。隨つて又專門的豫備知識を有しなければ了解出來ないやうな事は決して説かない。元來知識は如何なる專門科目でも、大體は常識から出發して其の最高眞理を究め得る筈である。換言すれば如何なる深奥の知識も常識で理解出來る所まで引下げ得る筈である。インテリゲンチヤはそれを一通り心得てゐなければならない。それ以外の事は專門家に讓つておけばよい。本講座は特にその點に留意して設けたのであるから、學生諸君には絶好の課外教科書となるであらうし、既に實社會に活動してゐる人には絶好の參考書となるべきを信じて疑はない。執筆者として特に多く文壇の新鋭に依頼したのは、行文の雅淳と記述の平明を期したからである。

**監修** 早稻田大學文學科々長 文學博士 金子筑水氏

**執筆者** 小田内通敏氏、小野　實氏、伊達保美氏、村松　正俊氏、柳田　泉氏、木村　毅氏、宮島新三郎氏、宮原知久氏、平林初之輔氏（イロハ順）

## （全十二冊內容）

**春期講座**
- 科學概論
- ルッソウよりトルストイまで
- 希臘文學史

**夏期講座**
- 海洋の研究
- 最近社會思潮
- 新文學概論

**秋期講座**
- 近代思想家の宗教觀
- 最近美學
- 生命の本質と起原

**冬期講座**
- 近世文藝思潮史
- 人文地理學
- 神秘主義研究

●發行期日　來る四月中旬第一冊を出し本年末までに第一期全十二卷を完了す

●內容體裁　從來の講義錄と異り一冊一科目讀切の單行本、菊版百二十頁、本綴頗美本

**會費** 壹部賣金壹圓・（纏めて御申込の方には左記の通り特價割引を致します）

**規定** 一ヶ年十二冊前金申込　特價九圓六拾錢　●半ヶ年六冊前金申込特價五圓拾錢
一期三冊前金申込　特價貳圓七拾錢　●郵送料は凡て一冊六錢宛申受けます。

**內容見本** 詳しい事は內容見本を御覽下さい。（申込次第送呈）

**申込締切** 特價提供は四月二十五日で嚴重に申込を〆切ります。

發行所　東京市神田區表神保町拾番地
春秋社
振替東京二四八六一
電話神田一一三八

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN